

日 時 平成26年8月20日(水) 午前10時 開 議

出席議員 (15人)

1番 村上啓二	2番 工藤和行
3番 黒石ナナ子	4番 今井敬
5番 工藤禎子	6番 佐々木隆
8番 大久保朝泰	9番 大溝雅昭
10番 工藤俊広	11番 工藤和子
12番 山田鉦一	13番 福士幸雄
14番 北山一衛	15番 中田博文
16番 村上隆昭	

欠席議員 (1人)

7番 後藤秀憲

出席要求による出席者職氏名

市 長 高 樋 憲	副 市 長 玉 田 英佐男
総 務 部 長 成 田 耕 作	企画財政部長 後 藤 善 弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 村 元 英 美	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永 田 幸 男
建 設 部 長 工 藤 伸太郎	秘 書 課 長 小山内 隆 文
人 事 課 長 沖 野 恵美子	管 財 課 長 藤 田 克 文
企 画 課 長 千 葉 毅	財 政 課 長 鈴 木 正 人
健康推進課長 木 村 斉 吾	福祉総務課長 鎌 田 幸 男
高齢介護課長兼 地域包括支援センター所長 山 口 幸 誠	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 玉 田 純 一
商工観光課長 幾 田 良 一	土 木 課 長 鳴 海 真 一
都市建築課長 真 土 亨	農業委員会会長 佐 山 秀 夫
選挙管理委員会 委 員 会 長 乘 田 兼 雄	監 査 委 員 廣 瀬 左喜男
教 育 委 員 会 長 委 員 会 長 村 上 良 子	教 育 長 阿 保 淳 士

教育部長兼 市民文化会館長	奈良岡 和 保	教育委員会理事兼 指導課長兼教育研究所長	宮 崎 晃 一
学校教育課長	山 谷 博 文	社会教育課長兼 青少年相談センター所長	駒 井 昭 雄
文化スポーツ課長	成 田 秀 範	黒石病院 事業管理者	柿 崎 武 光
黒石病院 事務局 長	沖 野 俊 一		

## 会議に付した事件の題目及び議事日程

平成26年第2回黒石市議会定例会議事日程 第2号

平成26年8月20日（水） 午前10時 開 議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 市政に対する一般質問

## 出席した事務局職員職氏名

事 務 局 長 長谷川 直 伸

次 長 三 上 亮 介

次長補佐兼議事係長 佐々木 聖 人

主 事 補 櫛 引 亮 兵

## 会議の顛末

午前10時02分 開 議

◎議長（村上啓二） ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

◎議長（村上啓二） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

8番大久保朝泰議員、13番福士幸雄議員を指名いたします。

◎議長（村上啓二） 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

8番大久保朝泰議員の登壇を求めます。8番。

登 壇

◎8番（大久保朝泰） みなさん、おはようございます。自民・公明クラブの大久保朝泰でございます。

高樋新市長におかれましては、このたびの市長への御就任、心よりお喜び申し上げます。こ  
としは、市政60周年という節目を迎え、黒石市のさらなる発展に向けて新市長のリーダーシッ

ブを大いに期待するところであります。ことしも東北各地の夏祭りは、がんばろう東北を掲げ、復興を願い、熱い夏祭りとなりました。我が黒石市においても、ねふた・よされ・元気祭りなどが開催され、よされは本日が最終日となっております。

また、ことしで東日本大震災発生から3年がたち、改めて、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。最近では、被災地や被災された方々への関心の薄れや、新たな問題もいろいろと指摘されております。私たちは今後も被災地や被災された方々のことを忘れることなく、日頃の暮らしの中でも息の長い心配りを続け、さらなる復興の加速を最大限に支援していくことが必要であります。ことしの夏も各地で記録的な大雨が観測され、被害が出ております。これから迎える実りの秋が災害などの影響を受けることなく東北地方、特に津軽平野の五穀豊穡を祈念いたすところであります。

それでは質問に入ります。

高樋市長は自身の選挙公約に、誇れる故郷・くろいし、里山の活用で6次産業プラスワン、田園観光都市を目指すとしています。そして3つの柱としては、1つは元気な黒石、2つは安心な黒石、3つは自立した黒石を掲げています。私からは、元気な黒石の指針の7項目について新市長のお考えをお伺いいたします。

1項目めは、市内で生産された農産物を黒石ブランドとして広く販売するための、トップセールスについてであります。

2項目めは、植物工場の研究と農家の所得向上についてであります。

3項目めは、古い街並みを大切に、観光客が癒される環境についてであります。

4項目めは、夏祭りを市民みんなで考え、市内外の方々が楽しめることについてであります。

5項目めは、空き店舗を活用した笑顔のある元気な街づくりについてであります。

6項目めは、企業誘致に取り組むとともに、バイオマス産業を視野とする地元企業の育成についてであります。

7項目めは、市民のスポーツ力向上についてであります。

次の質問に入ります。

姉妹都市交流についてであります。黒石市は現在、3都市と姉妹都市を締結しております。最初は、昭和41年の岩手県宮古市。締結者は高樋竹次郎市長でありました。次は、昭和46年アメリカ合衆国ワシントン州ウェナッチ市で、こちらも締結者は高樋竹次郎市長でありました。そして次は、昭和59年大韓民国永川市で締結者は中村淳治市長でありました。まずはこれら姉妹都市交流の現状と今後についてお伺いいたします。

次に、友好関係団体についてであります。

黒石市は、ねふたを通じて、東京都品川区中延商店街、立川市羽衣ねふた会、愛知県稲沢市

平和町商工会との交流があります。黒石市のねぶたが嫁入りをして各地区の祭りを盛り上げ、地域の活性化に寄与しております。そこで、友好関係団体との今後の関係についてお伺いいたします。

最後に、市議会は昨年約1年をかけ議会基本条例制定に取り組み、今年度より議会基本条例に基づき議会活動を実施しております。その中の1つとして、一般質問において、一括方式・一問一答方式の選択制を取り入れました。そして今議会が初めてとなり、さらに新市長を迎え市議会も大きく変わろうとしております。今後も黒石市のより一層の発展に向けて、私も誠心誠意努力してまいる所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

これにて私からの壇上からの一般質問を終わります。御静聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） おはようございます。大久保議員からは励ましのお言葉をいただきまして、ありがとうございました。私自身、常に初心を忘れないようにし、市民にとってどうあるべきかを考え、市政運営に努めていきたいと考えておりますので、一層の御指導のほどをよろしく申し上げる次第であります。

質問でありますけども、市長の公約の元気な黒石について御質問をいただきました。その中で市内で生産された農林水産物を、黒石ブランドとして広く販売するためのトップセールスについてであります。「米とりんごといで湯」を誇る市民憲章にもありますように、農産物を黒石ブランドとして磨き上げていきたいと考えております。特に米につきましても、年内にも名称が決定される県の新たな奨励品種青系187号に大いに期待しているのは言うまでもありませんが、これとは別に、昔から寿司米として定評のあった黒石米を復活できないか検討したいと考えております。寿司米に最高に適した品種の作付などの可能性について、研究機関と連携しながら調査・研究をするように指示したところであります。こうした取り組みを結実できれば、新たな奨励品種との相乗効果が生まれるのではないかと考えておるところであります。

また、りんごやその他の農林産物、二次加工品等につきましても、黒石ブランドとしての知名度、評価向上を目指し市場、物産展などで積極的にトップセールス、売り込みに努めてまいりたいと考えております。9月の20日、21日に品川区の中延ねぶた祭りが開催される予定になっております。これにも、私も参加をし、黒石を売り込んでまいりたいと考えております。

次に、植物工場の研究と農家の所得向上についてであります。当市は雪国であることから通年における農業収入が限られております。国内において植物工場は、試験的に実施しているところや本格稼働しているところもあります。こうした先進地の植物工場などを調査・検証し、

遊休農地などの活用した取り組みで、特に需要の高い野菜や花卉の苗を供給できるようになれば、本市の農業全体の所得向上につながるものと考えております。

次に、古い街並みを大切にし、観光客が癒される環境についてであります。黒石市はこみせ通りを代表とする歴史ある街並みや、点在する数多くの趣のある建築物などがあり、黒石らしさを醸しだしております。また、この空間でねふた、よされが行われる風景は、市民の暮らしを豊かにするとともに、多くの訪れる人々を惹きつけるものとなっております、他にはないものと自負しております。観光客が癒される環境整備のため、旧松の湯の再生とともに、地域の方々の御理解と御協力のもと、こみせの復元を推進し、ゆっくりとくつろげる空間を創出したいと考えております。

夏祭りを市民みんなで考え、市内外の方々が楽しめることについてであります。今回、初めて市長といたしまして黒石ねふた祭りの審査、黒石よされの先頭を歩かせていただきました。そこで感じましたことは、黒石ねふたは、若いパワーで新しいねふたを運行している団体ができているなど、大変うれしく思う反面、私が昔から知っている伝統的な黒石ねふたから変わってきているという印象を受けました。台数確保という視点も大事でありますけども、伝統文化、子供たちの教育的な部分で何か取り組んでいかなければいけないのかなというふうに感じた次第であります。黒石よされにつきましては、高校生や小・中学校の子供たちも参加いただき、コミュニティの部分については、大変意義のある祭りであると認識いたしております。しかし、今の黒石よされは、参加者数を確保するため、衣装などが統一されていない状況があり、観光視点での魅力が落ちてきていると評価する声も聞こえておりました。両祭りは黒石市最大の祭りと言って過言ではないほど一大イベントであります。もう一度原点に戻りまして、祭りの本来あるべき姿並びに将来について見なおす時期にあると改めて感じたところであります。私たちは、ねふたもよされも観光資源の1つであるという認識を持ってほしいという思いから、今後、黒石青年会議所、黒石よされ実行委員会はもちろんであります、参加団体や市民も取り込んでの話し合いの場を設け、その中からよい方向性を見いだしたいと考えております。

次に、空き店舗を活用した笑顔のある元気な街づくりについてであります。現在、中心市街地は空き店舗や空き地が目立ち閑散とした状況になっております。店舗を構える商店にとっては、長引く景気低迷の顧客の市外流出などによる経営不振に加え、税負担もあります。こうした市街地の現状をマイナスに捉えるのではなく、空き店舗が多いからこそ新たな街づくりが可能になると考えております。近年各地で開催され、非常に人気の高い手仕事展などがありますが、例えば手仕事工房と商品の販売を行う店舗などが、現在中心市街地にはない状態になっておりますので、これを新規性があり集客が期待できると考えております。具体的な施策につきましては適正かつ公平性を重視し、今後調査・検討してまいります、店舗を貸し借りする両

者にとりましてはメリットがあり、さらに買い物客や観光客で街を訪れる方々も笑顔になれるような空き店舗の利活用の仕組みの構築を市街地活性化を目指し考えていきたいと思っております。

企業誘致に取り組むとともに、バイオマス産業を視野とする地元企業の育成についてであります。現在、市は企業誘致可能な工業団地がないことから、企業からの問い合わせに対応するため、工場立地に適した民有地情報の収集および公開を行っております。また、弘前圏域定住自立圏構想の産業振興分野におきましても、圏域3市3町2村の広域連携によるパンフレット作成や企業誘致フェアへの参加、既存の市誘致・進出企業に対しては、本社訪問や各種補助事業の情報提供などを通じた良好な関係性を構築し、留置活動に努めております。このような状況においては、新たな地元企業としてバイオコークス製造販売を主とした工場設立が実現可能な段階に入っております。市といたしましては設立につきましても、これまでも県や関係する研究機関と協力し側面的支援を継続してまいりましたが、操業後は地域の雇用拡大が期待されるほか、地域の経済効果を生むことが期待されるため、支援を継続してまいりたいと考えております。同時に既存の工場設置に係る優遇措置につきましても地元企業の育成に有効な制度を検討してまいりたいと思っております。

次に、市民のスポーツ力向上についてであります。健康で長生きをするためには、普段から歩いたり運動したりと体を動かす習慣をつけることが大事であると考えております。そこで、市民が気楽に参加できるレクリエーションスポーツを市スポーツ推進委員と一緒に普及・推進を取り組み、1市民・1スポーツの浸透を図ってまいります。また、競技スポーツにつきましては、各種競技の練習の場を確保できるように、既存の施設で有効利用できる場所がないか工夫、検討してまいります。私からは以上です。

降 壇

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、姉妹都市のあり方と今後についてにお答えをいたします。

黒石市は、国内では岩手県宮古市、海外では、大韓民国永川市、アメリカ合衆国ウェナッチ市の3つの都市と姉妹都市を締結してございます。交流の現状であります。まず岩手県の宮古市につきましては、昭和41年に締結して以来、子供たちの体験交流学習やお互いのお祭り、それからイベントに参加するなど様々な交流事業が行なわれているほか、各種団体においても姉妹提携をするなど、広く市民間の交流に波及してございます。今年度は、民間交流のきっかけづくりの一つとしまして、スポーツを通じた交流事業を10月に予定しているほか、市制施行60周年記念式典の際に宮古市から頂戴しました100万円の寄附を元にしまして、姉妹都市交流事

業などのための基金を創設し一旦積立てた上で、今後の事業に有効に活用させていただく考えでございます。今後は、平成28年度に姉妹都市締結50周年という大きな節目の年を迎えることから、それに向けた各種交流事業を計画するとともに、民間レベルにおきましてもさらに多くの分野で交流が行われるよう進めてまいりたいと考えてございます。

一方、大韓民国永川市につきましては、昭和59年に締結して以来、両市代表団の相互訪問、そしてライオンズクラブ同士の交流、市職員の相互派遣、そして高校生のホームステイ・相互派遣事業などを行ってございます。また、今年度は姉妹都市締結30周年ということでございまして、永川市長及び永川市議会議員の皆様を本市にお招きし、祝賀会を開催したいと考えており、現在永川市側と日程調整を行っている次第であります。今後は、高校生のホームステイ事業などは非常に大きな意義があることから、相互の派遣・受入れを継続してまいりたいと考えてございます。

なお、アメリカ合衆国ウェナッチ市につきましては、昭和46年に締結以来、両市代表団の相互訪問を数回行い、その後は書簡での交流を続けてまいりましたが、昭和61年以降は書簡のやりとりもなく、交流事業は行われていないのが現状でございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、ねぶたを通じた交流のある友好関係団体との今後の交流等についてお答えいたします。

愛知県稲沢市平和町商工会、東京都立川市の羽衣ねぶた会、東京都品川区の中延商店街振興組合とは、大久保議員をはじめ、当市のねぶた関係者の御尽力もあり、ねぶたを通じたそれぞれの地域へのイベント参加で有意義な交流が行われてきたものと認識しております。今後とも交流が続くよう、市で支援等ができることはもとより、本市PRのための出展等、イベントへの参画などもしてまいりたいと考えております。直近では先ほど答弁されたように、9月20日に開催されます第14回中延ねぶた祭りの出陣式に高樋市長が出席する予定となっております。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。8番。

◎8番（大久保朝泰） 御答弁ありがとうございました。今回から一問一答ということで、1つずついきたいと思っております。

まず、高樋市長の公約は、観光田園都市を目指すという地域の再生、活性化を図るさまざまな改革の第一歩であると、私も大いに評価したいと思います。これを着実に推進していくに当たり、やはり体制面においても取り組んでいくべき課題があると思っております。これに関連してマ

スコミによると、高樋市長は、農林商工部を農林分野と商工分野に分割するというお考えをお持ちであると報道されておりますが、これについてお考えをお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） ただ今の再質問にお答えさせていただきます。

第1次産業を強化いたしませんと6次産業化にはつながらないわけであります。また、黒石はやはり1次産業が元気にならないと全ての産業が元気にならないと、そういう思いを常に持っておりました。そういう観点から、まずは黒石市の基幹産業である農業の強化、そして商工では空き店舗対策、企業誘致、バイオマス産業、また、観光産業の育成など強化しなければならない部分がたくさんあります。そのために、農林商工部を農林分野と商工分野に分離し、それぞれに特化した施策について、より一層機能性を発揮できる組織にしたいと考えております。

◎議長（村上啓二） 8番。

◎8番（大久保朝泰） ありがとうございます。

一応先ほど高樋市長のほうからは米を中心にある程度いろんな黒石ブランドを考えているような答弁でございましたが、りんごに関しても何かそういう考えがあるのであれば、少しお聞きしたいなど。以前、私ここでも一般質問の中でも、旧黒石農協時代、ひまわり黒石りんごというもので農協さんが売ってたということもありまして、この辺もし何か構想があるのであれば、言っていただければありがたいのかなど。まだ今検討中であれば、それはそれで結構ですので、何かあればいいです。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） りんごにつきましては、1番の問題としましては、やはり担い手対策だというふうに私は考えております。良質なりんごは山間部においては収穫できるわけでありますから、これを販売戦略をもって販売体制にもっていったならば、必ずや私は実行性はあるものだというふうに思うんですが、その前にですね、この担い手対策の一環としてやらなければいけないのは山間部での園地をどうしていくのかという部分が大変重要な問題である。これから若い方が作業しやすい環境を整備していくというそういう観点で考えますと、やはり山間部でのりんご園地というものをやはり平場に移し、わい化栽培を育成し収穫量を上げていくと。そういうことも大事なのではないかなど。そういうことも視野に入れて今回農林部という部を立ち上げ、そのことについても研究していきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 8番。

◎8番（大久保朝泰） ありがとうございます。

次の、植物工場についてでちょっとお聞きしますが、高樋市長の県会議員時代、よくいろん



な所に視察に行ってこの植物工場のいろんな熱心に研究されていたようにお聞きしておりました。私もよくわかりませんが、もう既に黒石でやってるような企業さんとか団体さんがもしあるのであればちょっと教えていただければありがたいと思います。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 市内で植物工場に取り組むところがあればというお話であります。類似施設として紹介できるのは、誘致・進出企業である株式会社アステックコーポレーション東北青森工場が排熱を利用した水耕栽培を大型ハウスで行っており、規模は2,352平方メートル。生產品目は季節により異なりますがコネギ、ミツバ、サンチュ等を生産・販売し、スーパー等にも卸しております。以上です。

◎議長（村上啓二） 8番。

◎8番（大久保朝泰） ありがとうございます。

ぜひ機会をつくって私も見に行きたいなと思いますので、その時はまたよろしく願いいたします。

次に、祭り関係でねぶたの件でちょっとお聞きします。ねぶた祭りの問題がちょっとありまして、今回ねぶたの牽引が昨年まで許可された方法で道路許可申請したところ、許可がおりないということがありました。運行団体および関係者が問い合わせましたが、明確な理由を説明してもらえなかったそうであります。このような問題は、過去にもねぶただけではなく、よされなどにもあり、運行団体がかなり苦慮してきた経緯がございました。その対策の1つとして、近年ではよされ実行員会に行政も加わり、いろんな案件に対応して成果を上げている事例もございます。このような観点から、やはりよされ同様ねぶたにも行政が関わり、いろんな面でフォローしていただければいいのではないのかなと思いますが、その辺のお考えをお聞きします。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） ねぶたの牽引等に関する件も含めまして、行政として黒石ねぶた祭りへの関与についてですが、公益社団法人黒石青年会議所のこれまでの活躍、若者たちの自主性を尊重する必要もあることから、側面からの支援は今までどおり続けるとともに、祭りの本質的なことに関わる協議、相談についてはこれまでも対応しており引き続き対応していきますが、行政として直接運営等に関わるという点につきましては、現時点では考えておりません。主催者、参加団体も含め、円滑なねぶた祭り運営を行っていただくためにも、祭りに係る規制等につきましては早めの情報収集、周知に努めるよう黒石青年会議所に申し入れたいと思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 8番。

◎8番（大久保朝泰） ありがとうございます。

企業誘致に関しましては先ほど市長のほうから答弁いただいたので、そういう方向でやっていただければいいのかなど。弘前圏の中でいろんな広域的に対応していただけるよう私からもお願い申し上げたいと思います。

続いて姉妹都市交流についてであります。まず宮古さんとの関係、これは大変良好な関係でことしの60周年記念にも来ていただき、太鼓のほうも披露していただき、大変成果があったのではないかなど。大変いい60周年市制記念であったと思っております。先ほど後藤部長のほうからもあったように、良好な関係を続けていっていただければありがたいと思います。

次のウェナッチ市の関係ですが、両市の関係は約20数年間曖昧なまま放置されてきたといってもいいような案件であります。いつまでも放置することは黒石市の信用問題に関わってくると思います。そろそろはっきりとすべきよい時期がきたのではないかなど私は思っております。この案件は新市長の祖父であります高樋竹次郎市長が締結したものであり、双方の事情に応じた具体的な解決策を導くことができるのは、やはり新市長のほかにはないと私は思っております。過去は過去として真摯に受け止め、放置され続けた実態と課題について整理し、定期的に見直すような体制づくりを行うとともに、今後の姉妹都市交流の効率的かつ効果的な事業について再検討し、新たな可能性を探る必要があるのではないかと思っております。

また、これからの時代は英語圏との関わりを強化・拡充し、多様化するニーズに対応した活用を促進し、交流の担い手を育成していく必要があると私は思っております。なぜなら2013年から小学校での外国語、いわゆる英語が必修化され、英語を用いた国際コミュニケーション力の育成とその指導体制の整備が求められているからであります。小学校の英語必修となったことで語学はもちろん、英語圏の暮らしや文化を学ぶ機会、そして英語圏の人々との国際交流の必要性について、まずどのようにお考えであるのか、理事者の考えをお聞きします。

◎議長（村上啓二） 大久保議員に申し上げます。

姉妹都市交流という1つのタイトル上げての再質問の中で、必要といえども英語教育の必要性強化という質疑は通告の外にあるものと議長は理解します。これについて答弁するのは結構ですが、さらなる質問は控えさせていただきたいと、こう思います。行政側答弁できますか。

企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、ウェナッチ市の関係についてお答えをいたします。

ウェナッチ市との今後の交流につきましては、これまでの経過や今後の展望を調査・再精査した上でですね、交流を再開するか、または姉妹都市を解消するかを含めまして、市長在任中に結論を出したいという考えでございます。以上であります。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 私からは外国語活動必修化の背景と

意義、そして英語圏との交流は必要かということの2点についてお答えいたします。

まず、平成23年度から小学校五、六年で必修化された外国語活動ですが、その内容は英語学習が原則となっております。そして必修化の背景ですけれども、21世紀は知識基盤社会と言われる、社会・経済などあらゆる面でグローバル化が急速に発展し、異なる文化の共存や接続可能な発展に向けた国際交流が求められております。そんな中、小学校では挨拶や自己紹介などのコミュニケーション能力の育成を目指した英語学習を推進していくことが必要と言われております。これまでは、学校間で指導内容にばらつきがあり、その格差をなくす意味も含めて、必修化が図られました。また、生徒の中には、中学校1年生からスタートする英語が不安材料となり、不登校や登校渋りの要因となっている現状がございました。そういう意味からも、小学校外国語活動は、中学校へ滑らかに接続する側面もあります。

次に、外国語活動の意義についてですが、現代の子供たちが自分の感情や思いを表現したり、他者の思いや感情を受け止めたりするための語彙や表現力及び理解力に乏しいという実態があります。そのことが原因で、他者とのコミュニケーションがうまく図られないケースが見られます。そこで、外国語活動によるコミュニケーション能力の育成は大変重要となります。その学習により、異なる言語や文化を体験的に理解したり、言葉の大切さや豊かさ等に気づいたり、言語に対する興味や関心を高め、ひいては、国語能力の向上に資することからも有意義と言えます。

最後に、英語圏との交流は必要かということですがけれども、前述の外国語活動の意義から鑑みて、本市の子どもたちがグローバル社会で生き抜くためにも、ぜひ必要と考えます。以上です。

◎議長（村上啓二） 8番。

◎8番（大久保朝泰） ありがとうございます。

たぶん後藤部長の答弁につきると思いますので、ぜひ高樋市長任期中にこの件は解決していただきたいと思いますので、よろしく願います。

あと、永川市、先ほど30周年記念に向けて今調整中ということですので、ぜひ実現できるよう理事者側も含め、議会側も何とか協力できればと思っておりますので、よろしく願います。

あとはですね、友好関係団体のいわゆる3つ、ねぶたを通じていろいろ交流中で、先ほど市長・部長のほうから、9月中延さんのほうには行かれるということでありました。ただ、あと来年以降立川、愛知県とありますのでぜひ市長が自ら行っていただき、皆さんと対話していただいているいろいろな情報を共有していただき、できればそちらのほうの祭り期間中以外にも、ちょっと言葉がうまくできませんが、展示をして販売するというをやっていただければ

いいのかなと思っております。その辺、もう一度お考えがあればちょっとお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 今9月20日、21日の中延行く際にですね、向こうの予定がまだ決まってないのではっきりしないんですけども、できれば前日行きて、品川区長さんと懇談を持ちたいというふうに考えております。そういうふうな自治体との繋がりも持っていきながらですね、黒石の商品をその地域で販売できてる環境づくり、または人的交流等もできればなというふうに考えてますので、今大久保議員提案にありましたことにつきましては、積極的にこれから考え、対応していきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 8番。

◎8番（大久保朝泰） ありがとうございます。

まさに市長が動くことはトップセールスです。先ほどからずっと言ってるようなことがまさにこのことだと思っておりますので、祭り関係なくいろんな部門にもぜひ足を運んでいただきトップセールスを行っていただきたいと、そのように考えております。

それと、今市長さんがおっしゃったとおり、向こうの区役所のほうにも行かれる。これぜひ、立川も含め稲沢もですね、やはり庁舎に行って、市長が動くとはやはり向こうも対応するんですよ。我々議員が行っても、その祭りで終わってしまうケースというのが結構あるものですから、やはり首長さんが動くことで全体が動くという実績がありますので、積極的にやっていただきたいと思えます。これは私からの要望・提言でありますので答えはいいです。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、8番大久保朝泰議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（村上啓二） 次に、15番中田博文議員の登壇を求めます。15番。

登壇

◎15番（中田博文） 平成26年第2回定例会に当たり、一般質問をさせていただきます。自民・公明クラブの中田博文でございます。

まずもって、高樋憲市長には6月15日第16回黒石市長選、無投票ではありますが御当選並びに7月18日の市長御就任、まことにおめでとうございます。改めてお祝いを申し上げます。改めてお祝いを申し上げます。高樋憲選挙事務所で6月15日の午後5時、当選が決定した際、幹部の方々から、16年間待ち続けたこの時、私たちの悲願でしたという言葉がささやかれていたことを今思い出しているところであります。高樋市長は8月6日の定例会での所信表明で、公正・公平で透明性の高い市政運営を強調。市政施行60周年の記念の年、無競争で6人目の市長に就任されたのであります。戦わずして勝利を得るということは高樋市長の人徳でもあり、高樋後援会の力の

大きさを物語っているのだと思うのであります。

市長の選挙公約、大きなタイトルは「里山の活用で6次産業プラスワン、田園観光産業都市を目指す」とあり、元気な黒石、安心な黒石、自立した黒石の3つの柱があります。元気な黒石では黒石ブランドを確立し、トップセールスに努めることや、雇用の場にもなるバイオマス産業の育成。自立した黒石の中では地区協議会と一緒に住みサービスの上などにも努めるとあります。元気な黒石に関しては、さきに大久保朝泰議員が取り上げております。私は安心な黒石について5項目あります。

通告に従い、まずは選挙公約から始めさせていただきます。

安心な黒石の1点目は、雪のない街づくりについてであります。ここ2年、3年と冬には、大雪に見舞われる年が続き、市民の誰しもが雪片付けで四苦八苦しているのが現実であります。公約で雪のない街づくりに努めるとうたっておりますので、まずはどのような施策を講じようとしているのか、お尋ねいたします。

2つ目は、子供たちを産み育てやすい環境に努めるとあります。まずは、市長がどのような施策をお持ちかをお尋ねいたします。当市も、財政が厳しい中であっても保育料の軽減措置、第3子以降3才児未満児の保育料無料化、乳幼児医療費の無料化等の実施をし、鋭意努力してきたところであります。市長に新たな施策があるのであれば、お尋ねいたします。

3つ目として、安全・安心な通学路を整備するとのことでありあります。当市の小学区には、昔はいろんな学校にスクールゾーンがあったと思っております。その実体はどのようなになっているのか。また、通学路の危険等の検証はなされているのか。整備の要望とか、特に必要にせまられ整備した箇所はあったのか。今後、整備を考えているところはあるのかをお尋ねするとともに、市長が安全・安心な通学路を整備するとのことでありありますので、市長の所見を賜りたいと存じます。

4つ目は、健康相談員を配置し市民の健康寿命アップに努めるということでありあります。まず、健康相談員というものとはどのようなものなのかと、市民の寿命アップにはどのような手段を講じようとしているのか、あわせてお尋ねするとともに、この件に関しての市長の所見を賜りたいと存じます。

安心な黒石の最後は、ユニバーサルデザインの街づくりについてであります。ユニバーサルデザインを検索すると、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異・障害・能力のいかんを問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計をいうとのことであり、できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすることであるということでありあります。高樋市長はユニバーサルデザインの街づくりについては、どのようなことを想定しているのかをお尋ねいたします。

大きな2番目として、市民との対話についてであります。高樋市長は定期的に市民との対話を行い、市民参加型の市政に努めるとのことです。市民の要望に応えることができる、できないは別として市民との話し合いは継続的に開催すべきと私は思います。年何回ほど想定しているのか、まずはお尋ねいたします。鳴海前市長時代、何度か市民との話し合いや市民会議等の提案をしたのですが、実現はかなわなかったのであります。中村市長時代は、市長対話集会、清藤市長時代は市長と語る市民の集いという名称でしたが、両市長とも短い期間で終わっているのであります。高樋市長にはどのような方法で実施しようとしているのかと、自らの思いはどのような考えがあるかを述べていただきたいと存じます。

3番目として、地区連絡協議会についてであります。小さな行政を念頭に地区連絡協議会とともに住民サービスの向上に努めるとのことについてであります。8月11日に地区連絡協議会長との話し合いは実行されました。まずお尋ねすることは、小さな行政の内容と意味、地区協議会長との話し合いの目的と狙い、何かであります。地区にどのようなことを期待するのか、市長の見解を問うものであります。

最後の質問は、市民文化会館についてであります。鳴海市長時の平成20年から市民文化会館が休館となり、ことしで7年目になります。今まで5人、延べ15回、一般質問で取り上げられておる、懸案事項であります。市民の大方の方が、市民文化会館の再開を待ち望んでいるのであります。一部再開の改修費は3億5,000万円と言われておりますが、休館が伸びれば伸びるほど、新たなる箇所の改修が必要になっていくものと推察されます。さらに改修の経費が膨らんでいき、再開はさらに遠のいていくのではないのでしょうかと危惧するものであります。鳴海市長時のこの件に関しての答弁は、財政健全化が市の最重要課題であり、平成27年度全会計赤字解消が大命題であるとのこと。市民の立場からすると、一部再開も含め風前のともしびであり、可能性はもはや消え去ったとしか思いません。高樋憲市長は、市民文化会館の再開と一部再開についてどのような御所見をお持ちかお尋ねするものであります。

以上で壇上からの一般質問を終わらせていただきます。御清聴まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 中田議員におかれましては、今までの経験を私どもにさらに御指導していただければ大変ありがたいものだというふうに考えております。

それでは、私からは市長の選挙公約の安心な黒石について、その中の雪のない街づくりについてお答えさせていただきます。

本市の雪対策は、降雪が概ね10cmに達した際、除雪車を一齐に出動させる除雪と、路上や路肩に堆積して交通障害になる雪や、道路幅員を狭くしている箇所の雪を排除する排雪からなり、また施設としては、克雪のためのロードヒーティングや流・融雪溝、防雪柵を設置し、市民のための雪捨場として、浅瀬石川の河川敷を昨年より例年の2倍の面積で青森県からお借りいたしております。今回、各町内にある空気を雪捨場として有効に利用することもあわせて考えていくこととともに、全ての人々が公平に使えるかつ利用しやすい、年齢や障害の有無に関わらず、さらに季節を問わずという考えのユニバーサルデザインを採用して、雪の無い活動しやすい環境の街づくりにつなげていきたいと考えております。

次に、子供たちを産み育てやすい環境についてであります。本市では、保育料の軽減や乳幼児医療費の無料化など国の制度を活用したものや、市独自の施策によって子供を産み育てやすい環境の整備に努めておりますが、自治体の財政力によってその軽減の幅や無料化の対象範囲などに差が生じてきております。本市におきましては、将来的にはほかの自治体と肩を並べるレベルまで持っていければと考えております。また、自治体に財政力があるなしで、子供を産み育てやすい環境に差が生じることはおかしな話でありまして、今後、この点につきましては国や県に対しましても改善を求め、子供を産み育てやすい黒石市を実現のために取り組んでまいります。

次に、安全・安心な通学路の整備についてであります。近年、登下校時の児童等の列に自動車が入り込み、死傷者が出るという痛ましい事故が多発発生いたしております。国土交通省、文部科学省、警察庁が連携し、全国の小学校の通学路について緊急合同点検を行うように指示があり、本市でも10小学校全てにおいて、学校関係者、地区協議会、黒石警察署、道路管理者が共同し、危険個所の特定とその対策をまとめ、早急に対応が必要なものにつきましては対処いたしております。また、今年度も青森県教育委員会による、青森県通学路安全推進事業で、通学路安全推進委員会が組織されており、今後必要とされる地区の通学路の点検につきましては、小・中学校適正配置も視野に入れながら、安全対策の検討を行うことになっております。この結果を踏まえまして、国・県とも歩調を合わせながら、安全・安心な通学路の整備に努めてまいります。

次に、健康相談員を配置した市民の健康寿命アップについてであります。市では、住民の健康保持と保健衛生充実のために、各町内から町内会長の推薦を受けた方々を個々に保健協力員として委託し、市の保健事業に協力いただいております。今後は、地域での健康づくり活動をさらに活発に行うため、体系的に組織化されていない保健協力員の組織化を図り、今まで以上に研修などで健康に関するさまざまな知識を学び、保健協力の役割を1人1人が認識し、健康づくりに必要な知識や健診の重要性などを家族や住民に広げていく活動ができるよう支援して

まいります。このように、行政と地区組織が積極的な活動を展開することで、健康寿命のアップにつながるものと考えております。

次に、ユニバーサルデザインの街づくりについてであります。その前段の市のこれまでの取り組みについてであります。これまで、公園などに多目的トイレの設置や、歩道の段差の少ないセミフラット形式を取り入れるとともに、黒石駅前の歩道へ無散水方式の融雪を導入いたしております。また、地区の方々の協力をいただきまして、市から貸し出したハンドガイド式除雪機械により、冬期間の歩行空間の確保に努めるなど、安全性及び快適性の向上に図っております。そのほか、八甲から柵ノ木3丁目までの区間に着手しております黒石環状線街路事業におきましても、車椅子での通行が可能な幅員3.5mの歩道を両側に設置する予定で計画を押し進めています。

次に、選挙公約の考え方でありまして。少子高齢化や人口減少社会が目の前に来ているという状況の中で、年齢や障害の有無に関わらず、あるいは季節を問わず、全ての人が活動しやすい街づくりを実施いたしていきます。そのために道路、公園及び公共建築物の整備、維持管理におきましても、市が先導的な役割を果たすことにより、ユニバーサルデザインを推進し、定住の促進や来訪者の増加につなげてまいりたいと考えております。

次に、定期的集会の必要性についてのことでありまして。市民との対話につきましては、単なる陳情・要望の場ではなく、市民との建設的な意見交換や市民と行政の情報交換が行える場にしたいというふうな思いでありますことから、当然、必要性があるというふうな考えております。進め方といたしましては、まず、各種団体の方々と意見交換を行い、その中でどのような問題があるのかピックアップをした上で、これから定期的に集会を開催することがいいのか、または、対話の仕組みをどのようにすればいいのかなどを考えてまいりたいと考えております。いずれにしましても、この対話集会はやらなければいけないという前提のもとで体制整備を考えていきます。また、先般、今月11日に地区連絡協議会長さん方との話し合いを行わせていただきました。大変こう、1時間半くらいでありましたけども、いろいろいいお話を聞かせていただきましたし、再度このような地区協議会の皆様方との意見交換会の場を設けたいというふうに改めて認識させていただきました。今後も様々な分野の団体の皆さんとの意見交換の場を、これから積極的に設定していく予定であります。私からは以上であります。

降 壇

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは市民文化会館一部再開の件につきましてお答えをいたします。財政的な観点から申し上げたいと思います。

黒石市民文化会館の再開は、市民からの要望が多く、鳴海前市長も1日も早い再開に向けて



取り組んでまいりました。平成24年度当初予算に黒石公民館部分の一部再開のための設計費用を盛り込みましたが、その後の財政事情の変化によりまして、改修工事の着手を断念した経緯がございます。市におきましては、財政健全化が最重要課題でありまして、平成27年度全会計赤字解消を大命題として取り組んでおります。そのような中でどうすれば早期に実現ができるのか、現在慎重に検討を進めているところでございます。以上であります。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、地区連絡協議会についてお答えいたします。

黒石市内には10地区にそれぞれ連絡協議会が組織され、地域独自のコミュニティを中心とした自主的な活動が展開されております。市行政の業務等を地区連絡協議会へ委託することにつきましては、市行政事業の実施など、さまざまな事項が考えられますので各関係機関と連携し、実施に向けた可能性を探るとともに、各地区連絡協議会の話し合いを実施してまいりたいと思います。

また、教育委員会では、平成19年度から指定管理者制度を導入し、各公民館及び地区センターの維持管理や運営を各地区連絡協議会へ委託しており、今後も情報共有を図りながら、指定管理者制度の効果的運用に努めてまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。15番。

◎15番（中田博文） 懇切丁寧な御答弁ありがとうございます。

まず、安心な黒石の1点目、雪のない街づくりについてでありますけれども、一番手っ取り早いことはですね、流・融雪溝を市内全域、将来的には、そういう考えを持つのが本当は一番いいわけですが、なんせ財源が伴いますので、この流・融雪溝の将来的、来年度だけでなく、遠い将来どのような考えがあるかということをまずはお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 流・融雪溝につきましては、現在流雪溝が1万2,000メートル、融雪溝が1万7,000メートルで2万9,000メートルでございます。今年度から平成30年までの5年間で浦町2丁目からぐみの木まで、約930メートルの融雪溝を整備する予定でございます。今後のことでございますけれども、各地区から地区要望でいろいろな要望が上がっております。その中で、流・融雪溝も例えばいろいろ数件上がっておりますけれども、今現在の計画をまず終了させてから、そちらのほうの計画に望みたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 私の家の前も流雪溝あってですね、2時間、3時間かかるんですけども、流・融雪溝のない方々に比較すると、まだ楽な形で雪の処理をしております。流・融雪溝のない町内、西部であると大町の中の路地的なところとか、緑町、そういうところとかに行くんですね、やっぱり自分たちの近くにも流・融雪溝なるものを設備・設置して欲しいという要望は本当に強いわけでありまして。なかなか、それに応えるということは時間とお金がかかるわけでありまして。ただ、その雪の処理ということ考えた場合、やっぱり住宅地の中に入ると、なかなか空き地もなければ、雪の持って行きようのない町内が結構あるわけです。今までもこの議場で再三再四、担当課のほうにはそういうものの情報をとりながらですね、窓口になるべきであるということ、提言・提案してきたわけでありまして。その町内によっては、空き地、畑とか冬場空いてるところに堂々と物をここに置かせてくださいという形でやれる町内・地域はいわけてありますけれども、おとなしいような住民の方のところは、なかなかその場所も確保できず、悩んでいる方々が多いわけでありまして。私、疑問に思うのはですね、おらの家の畑さ雪置かせてるよ、でもそれは行政が全然関知なく、近くの方が置かせてくださいということで置いてるということでありまして。ただ、除雪の業者からするとそこに雪を置かざる、結果的に行政をお願いして排雪をしているということでありまして、もっとそういう点に関してでもですね、これから高樋市長は地区連絡協議会を政治のほうに参加していただくということでありまして、地区協議会、各町内を通してですね、そういう冬場の困難な困窮しているそういう問題にもっともっと担当課は取り組んでいかなければいけないと思っておりますので、その点どのような見解あるかお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 流・融雪溝については勾配の関係とか水量の確保、それらによって、実際設置できない箇所があるのは事実でございます。市内の雪寄せ場、まず市長の公約の1つにもありましたけれども、その市内の雪置き場につきましては現在200箇所ございます。それを市で確保しているかということについては、現在、除雪の委託業者が自ら確保している状況にあります。民有地のこれからの、例えば準公用地化ということにつきましては、当課も現在調査中ございまして、例えば固定資産税を減免している弘前・秋田市など、そのような民有地の準公用地化をして雪寄せ場にしている市もありますので、詳細についてこれからも調査したいと思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 建設部長さんには、まず期待をするわけでありましてけれども、やっぱりですね、市民に対し流・融雪溝ある本通りとかそういうのはまた別にして、やっぱり冬場巡回をしながら、この辺は雪寄せ場もないし、雪どのようになってるんだらうということのアンケー

トとかそういう話をとってですね、地区、それと町内の方々と、その点もうちょっと親切的な優しい政治というものに心がけていただきたいと思います。見解のほどをお願いいたします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 今後、例えば地区要望の際とか、そのような時にアンケート、または聞き取りをして対応したいと考えます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 私、今申し述べているのは来るのを待つんでなくて、やっぱり行政側が徹底的に、そういうものを述べられない方もいるんです。町内会長にしゃべれない方もいるんです。やっぱりその状態を、現状を見ながら、その周りの方に聞き取りをしていくとかということの思いやりを持っていただきたいと思いますということを私述べているわけですので、その点お答え願いたいと思います。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 議員おっしゃるとおり、足を運んで地区の要望をかなえたいと思います。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 次に、2つ目の子供たちを産み育てやすい環境に努めるということでありましてけれども、先ほど高樋市長のほうから御答弁いただきましたけれども、まだこれからというものもあるとは思いますが、実際黒石はですね、先ほど私述べたとおりお金がないにも関わらず、いろんなことをまずはしてきております。実際ですね、他市の町村とか小さくなればなるほどいろんなことやってもお金がいくらもかからない、ということを実際実施しております。黒石あたりもですね、もう子供の数というものは減ってきておりますので、思い切った施策というものをやっていかなければいけないので、他市との、新しいものをやっているとこをもっともっと研究しながら思い切った、逆に市外から人がくるような形で努力・研究していただきたいと思いますけれども、その点についてお答えいただきたいと思います。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 子育てしやすい環境ということで、限りある財政の中でいろいろ実施しております。議員も御承知のように、国・県等に医療費の無料化とか、うちほうでも要望等出しております。その中でいろんな施策、今市長が考えておりますけれども、その中で優先順位をこれから決めて実施していくものというふうに考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 今度は3点目、安全・安心な通学路を整備しますということであります。

今までこの議場でも問題提起しておりますけれども、最近よく聞かれるのが北地区であります。飛内・小屋敷・二双子等の県道。これがあまりにも交通量が激しい。たぶん六郷方面も同じだと思っておりますけれども、このものを役所のほうに、行政側にお願いはしたんでありますけれども、県道であるがゆえに県のほうにはお願いはしてるけれども、なかなかその実現までには至らないということでもありますけれども、県議会議長をなされた高樋憲市長でありますので、その点ももっともつこう力を発揮しながら決して大きいものでなくていいわけです。子供たちが安全にそこを通れるということをしていただければいいということでもありますので、何かコメントございますればよろしくお願いたします。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 中田議員のお話のように、飛内の県道は私も十分理解をしております。実際あそこはですね、私が県会議員時代に両サイドの側溝整備を行っていただきまして、その部分だけでも大分幅員が広がってですね、子供たちの歩行の部分での安全性は若干はよくなったんですが、ところが冬場になりますと雪が押されてしまって融雪溝の上すら歩きづらい状況になってるんですが、でもあの地域のPTAの方々がボランティアでですね、その都度その都度排雪等々していただいて、今現在子供たちの安全が確保されているような状況であるというふうに認識いたしております。市といたしましては、あそこをですね、再三県にも要請は、または要望活動もしておるんですが、すぐ対応できるという部分にはなかなか見いだせない状況なんですけれども、ただ1つだけ畑中・竹鼻線の道路があ的小屋敷の十文字で、一時事業がストップしたわけでもありますけれども、地域住民の方々の強い要望等々もありまして、県のほうでも現在あの事業に着手している準備をいたしております。ですので、あれが完成しますと、また若干子供たちの通学路の安全にはプラスになるのではないかなというふうに考えておりましたので、まずは今は、それを早期に完成させるべく努力していきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） はい、わかりました。

4番目としてですね、健康相談員を配置し、市民の健康寿命アップに努めるであります。

行政側がいろんなことを今までもしてきておりますけれども、やっぱり市民の意識というものを高めなければ、寿命のアップというものは成されないと思っておりますので、もっともつ意識改革というものをすべきだと思いますけれども、担当課のほうでも結構ですので、コメントお願いたします。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 平均寿命・健康寿命を延ばすために、議員がおっしゃったように市民の意識を高めると。これがやっぱり1番大切だというふうに担当のほうで

も思っております。担当では、平成18年から健康づくり、腹八分目運動等実施しておりますけれども、保健協力員先ほど言いましたように、個々をお願いしているということで、まだ組織化できておりません。これを今年度できるだけ早く組織化をして、行政からのヘルス・リテラシーという、健康共有ですか、その辺の知識を市民に普及するために組織化をしてやっていきたいというふうに考えております。議員の方々も、そういう観点から御協力をお願いしたいというふうに思います。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 恥ずかしい話ですけども、私自身も集団検診、母に何回も行かなければいけないということで3年か4年ぐらい前から集団検診に行っております。その結果がでるとですね、関心がでて、再度その病院のほうに行って検査してくださいということになると、素直に気持ちがそっちのほうに向くと。で、何もなただ体調が悪いつてなると、ただ菓飲んで終わっちゃうと。やっぱりそういう点ですけども、保健協力員というものありますけれども、果たしてその方々が一生懸命努力はしておりますけれども、強く物事を入れていけるのかなということを、もっともっと権限的なものを与えるべきだと思いますけれども、その点いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 健診の結果ですけども、今西部地区については重点地区として糖尿病予防の関係で保健師を全部つぎ込んでおります。健診の結果について受診した方に1人ずつ個別の説明会を開催しております。なかなかこれ専門的なもので、たぶんこれ健康相談員とか保健協力員がなかなか説明っていうのは難しいと思います。弘前市で、弘大と給付講座という形でお金を出して、相談員みたいな形で育成して、その辺で健康の教養を普及してるということですけども、その健診の中身についての説明とかはやっぱり専門性のあることなので、そういう保健師とか看護師とか、そういう方でないとやっぱり中々できないんだろうと思います。ただ、先ほどからおっしゃっています健康相談員、それから保健協力員、その健診を受けるために普及するという形のことを御協力いただくというふうに考えておりますので、また今、西部地区で実施しているその健診の結果の説明会、たくさん人来てます。健診受けた人やっぱり大分来ますね。それをできれば市内全部にいきたいんですけども、まだまだ保健師の数とか、そういう人的なものが不足しているのでできないんですけども、順次流していきたいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 今、村元部長さんの答弁にもあったようにですね、今までもこの議場で同じようなことを述べている議員もあります。やはり最後はお金がないのでなかなか保健師もふ

やすことができないと。そういう結果的な指導も今のところは西部地区だけであると。これも臨時的な形でそういう方々をふやす、そういうことはできないものなのかということ疑問ちよっと感じるわけなんですけども、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 保健師というのは国家資格を持っている方です。それから看護師も同じですけども、なかなか保健師そのものが例えば臨時で募集しても集まりません。毎年毎年、例えば今産休とか育休で休む保健師いますけども、その穴埋めをするために職安通したりいろいろつてを伝って保健師探しますけども、大変苦勞してます。やっぱりなかなかお金がないという話でなくて、そういう臨時的なものでやるにしても、なかなかその人的なもの、人材がないということですよ。いないというなかなか集まらないというのが現状でございます。現状、市で今実施している産休とかその辺については問題なく何とか確保してますけれども、この事業展開して、全市的に展開していくとなれば5人10人で足りないと思いますけども、その辺を集めるというのはなかなか地域の青森県そのものとしての保健師の数とかそういうものもあると思うので、なかなか難しいのかなと思いますけども、その辺は1つの提案としてこちらも考えていかなきゃいけないだろうというふうに思っていました。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 今のその保健師、やっぱり専門的な資格持った方でないと指導コメントはできないと。何か違った形で、何か方法とか県の力を借りながらやるということできないのかなと思いますけどもいかがでしょうか。というのは、すごく西部地区民として今回はすごい細かいところまでの説明と指導していただいているということが、何かこう喜びながらほっとしている。これやっぱり市内一円にこういうものを実施していただきたいというのが希望です。ということで何かございませんか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 今回西部地区を選んだのは、前もこの議場でお話しましたように、西部地区の糖尿病に罹患する患者が市内で1番多いということで西部地区が1番健康的にはあまりよくないので西部地区を選んだ状況がありますけれども、今おっしゃたように、そういう説明とかそういうのやっぱり資格がないとなかなかできないのであれですけども、できるだけこれを各地区に広げていくよう努力はいたしたいと思います。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） はい、わかりました。何とか頑張ってくださいと思います。

次に5番目として、ユニバーサルデザインの街づくりに努めるとありますので、実際今までですね、先ほども少しばかり説明ありましたがけれども、今まで当市で行ってきている事業等あれば述べていただきたいと思います。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） まず、公園などにおける身体障害者用及び多目的トイレの設置状況につきましては、13公園のうち6公園など11カ所に設置しております。具体的には北美街区公園、駅前多目的広場、御幸公園、東公園に3カ所、運動公園に4カ所、かぐじ広場というふうになっております。また、セミフラット形式をとっております、以前歩道整備においては段差が20センチメートルくらいありましたけれども、段差がないようスムーズな歩行が可能なようバリアフリー化しております。そのほかにつきましては、道路などの無散水方式による融雪を実施しております。例えば駅前広場に関しては2,474平方メートル、それからその近くの歩道の融雪、それから新坂・高賀野の車道の融雪などでございます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） はい、わかりました。その件に関してですね、市民なり議会等からその後の要望等があったかどうか。そのものに対して対応的なものを考えているかどうかまずはお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） いろいろ地区要望とか見ますと、建設関係が例えば全体が150あるとすれば100ぐらい建設の関係でございます。いろいろ中身を精査すれば歩道とか流雪溝、それから今、ユニバーサルデザインに関連するものもやはり出てきております。ですので、予算の関係もございませうけれども、今後それらに対応していきたいと考えております。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） はい、わかりました。何とか数多くのもを対応するようによろしく願いたいと思います。

次にですね、市民との対話についてであります。高樋市長はですね、市民との対話を重視していきたい。先ほど、いろんな各種団体との話し合いをしたいということは、それはそれとして、やっぱり地区もしくは公民館にあってその公民館の方々の話をしながら地区民に集まっていたら、いろんな話、意見交換をするということを考えていただきたいと思います。というので、今まで過去に2人の市長はそのタイトルを市民との対話集會に銘をうっております。名称をつけております。高樋市長はどのような考えがあるかということをお尋ねしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） まず今、先般、地区連絡協議会の会長さん方との意見交換会をさせていただきました。先ほども答弁させていただきましたけども、各種団体の方々とまずは1回、現状に対する私自身も認識を深めたいという気持ちもありまして、それを今事務方のほうに準備をお願いもいたしております。それを踏まえた上でですね、各地区住民の方々の対話というものをどのようにしていけばいいのか、これから検討していきたいというふうに考えてます。また、どういうふうなかがみ文句というふうな考え方なのかと思いますけども、まだそれにつきましては、まだ思案中であります。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） はい、よりよいものを考えていただきたいと思います。

次に、大きな3番の地区連絡協議会についてであります。私も今までも提案してくるのでありますけれども、もっともっと地区のほうにですね、義務的なものというのかな、責任というものを逆につくってあげてですね、市長が言う地区の行政参加というものをそういうものをつくることによって参加せざるをえないというのか、意欲を持って参加してくると思いますので、強いて例を上げるならば、地区に公園とかある地区の場合、若干の活動費・維持費的なものを抛出して、そういうものを管理していただく。そしてまた道路、側溝、空き家、そういうものも含めてですね、行政はやってますけども、本当に今職員数は減っております。そういうものをですね地区協議会を通しながら、そういうものの管理・巡回というものも検討すべきではないかということは今述べたいと思っておりますので、その点何かお考えがあればお願いいたします。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 先般も地区連絡協議会の会長さん方とも意見交換した際にもですね、地区連絡協議会の独自性というものをもっと出せないのかという話もさせていただきました。ただ、現行法ですね、いろんなまだ制約等々もまだあるようでありますので、その辺も十分これから調査研究して、今中田議員のお話にありましたように地区連絡協議会で対応できるものは、地区連絡協議会で対応できる体制づくりを進めるように検討していきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） はい、提案でありますけれども、やっぱりそういう意識の改革というものを、市長から各地区のほうに強くアピールしていただきたいと思います。

最後の質問ですけれども、市民文化会館。先般ですね、財政状況とか黒石の今までの状況を知ってる方がですね、文化会館については10年後どうなってるか、要はその方が見るには10年は一部再開も含めて文化会館の再開はほとんど難しいよという指摘をした方があります。とい



うのは人口減、税収減、交付税減というものがこれからもろに出てくるということを考えた場合、3億、4億の一部再開の費用、この捻出っちゃうのが容易ではないということを考えた場合ですね、私は前からもしも再開が可能でないのであればもう諦めて、その後の処理・対処することも一応検討しなければいけないのではないかとということを申し述べております。本当に今までの答弁どおり文化会館の再開を待っていいのかどうかっちゃうことを強く今までも述べてきておりますので、財政状況、財政部長あたり、相当のものを掴んでると思うのであります。どうです。今後、可能性というのは5年後とか10年後、いやこれこれこういうふうになるから可能性はあるからもうちょっと待ってくださいと言えるのかどうか。たぶんその10年後ということになると部長さんあたりは退職しちゃっていなくなるということになるわけですので、市民にもっとですねわかりやすい、できるのかできないのか、可能性あるのか待っていいのかということをもっともっと示していかなければいけないもう時期に来ていると思うので、その点説明をお願いしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私もはっきり申し上げたいのが気持ち一杯であります。それがはっきり申し上げられないのがですね財政事情の苦しいところであります。一番の理由は、国の行き先がまことに不透明で、ことしの普通交付税2億3千数百万、見込み以上に減額されたわけですけども、その辺がですね、当初国から示されてる財政状況、地方財政計画を大きく転換してるところがあるというふうに思っております。その理由についてはですね、非常にわからない部分、不透明な部分があるということが、なかなか国の真意が掴めないというところもあるわけですけども、そういう中でもですね、市としましては全く諦めてるわけではございません。そういう厳しい財政状況の中にもありましてですね、市長からの新たな指示で、改修工事の内容の見直しを図る作業を今進めてるところでございます。先ほど議員さんも3億5,000万円という数字述べられましたけども、もっと少ない予算で、費用でですねオープンができないのか、その可能性を検討しているところでございます。あと、教育委員会としましてですね、再開に向けて関係した条件整備を整えている作業をしていると伺っております。以上であります。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） これ地方にあっては難しいと思うのでありますけれども、行政がもうアップアップという状態であります。民間のほうにですね、ただで貸しますよ、修理・修繕はその民間の方でやっていただきたい。で、その文化会館を有料で開放、使用料をとりながら運営していただきたいというふうな考えと、今民間のPFIというこういうものの利用、実現というものはできないのかということを考えていただきたいということでもあります。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） ただ今の運営の方法ですけども、いろいろな方法が最近出てきております。そうした事例が果たして黒石に馴染むのかということもありませんけども、いずれにしてもどうすれば早く実現できるのかということを最優先にして、開館へ向けた方向で考えていきたいと思っております。

◎議長（村上啓二） 15番。

◎15番（中田博文） 私たまに着物着て着付けとか美容院に行くときもあるんです。正月とかです。で、行くんですけど、そこの経営者の方いわく、自分たちは街の中にいる人間だって、ある意味ではスポカルイン黒石とか伝承工芸館、こういうものは逆に一部の人間しか利用なり使われていないし、どれだけ市民に対しての効果っていうものを考えた場合、やっぱり市内、市外、市内外の方々ということになるといろんなイベント、そういうものを考えた場合、文化会館のほうが1番でないかというお叱りをこうむったりして、一生懸命説明するんですけども、そういうことを言われると、ああそうなのかなというような気持ちもなったりするわけであり。やはりですね、美容院もしかり、飲食もしかり、小売店もしかりであります。市内外からやっぱり人が街中に来ることによって、少しでもお金を落としてもらったり、人がそのかいを歩くことで活気にみなぎってくるということ、もう休館始まってからの声でありますので、教育部長さんの答弁も含めながら早い時点です。改修費ももっとも少なく済むのであれば、もっと少ない額で開放、一部開放するというものを市民に報告していただきたいと思っております。提案で終わります。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、15番中田博文議員の一般質問を終わります。

昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時38分 休 憩

---

午後 1時03分 開 議

◎議長（村上啓二） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、3番黒石ナナ子議員の登壇を求めます。3番。

登 壇

◎3番（黒石ナナ子） こんにちは。自民・公明クラブの、黒石ナナ子でございます。

平成26年第2回黒石市議会定例会におかれ、高樋憲新市長とともに思いを1つにし、市民、職員、議員の私達と、悩みの種である財政の立て直しを頑張っていけたらと思っております。本日、この壇上にて一般質問をさせていただく機会を得て、光栄に思っております。理事者側の御答弁よろしく願いいたします。

冒頭。報告。先月7月19日、20日と、羽州街道交流会第10回福島県桑折町大会に出席してまいりました。昨年第9回大会では黒石で開催され、鳴海広道前市長、市担当課、市民の皆様、各社団体のおかげを持ちまして、盛会に終えられたことに、改めて感謝を申し上げます。昨年、次期交流会開催地である福島県桑折町からは、当時、高橋宣博町長が遠路出席されました。そのお礼も兼ねまして、この度参加させていただきました。出席して知ったことですが、桑折町の近くに、その昔津軽黒石藩の飛地、明治四年の廃藩置県で藩がなくなるまで、黒石津軽家は2カ所に飛地を持っておりました。その1つが、福島県伊達郡の秋山村、今の川俣町です。また、開催地である桑折町には弘前藩家老高倉相模守藤原盛隆のお墓があり、この御家老は、中野もみじ山に100種類のもみじを植樹した9代寧親公の御子息で、10代信順公に仕えた家老です。このお墓のあるお寺は、町の観光コースになっておりました。羽州街道、奥州街道の宿場町として栄えた桑折町には、今も人や物、産業、人情の交流が悠久の時を経て、その歴史を色濃く感じさせてくれました。この飛地の領地は、7月30日、議案説明会に各議員に贈呈されましたわたしたちの黒石第5集70ページに紹介されております。

御提案ではございますが、姉妹都市は韓国永川市、岩手県宮古市、両市との交流は年を経て絆も深く、市民、議員との交流も活発に行われております。そこで市民憲章にもありますように、歴史をあたためかおり高い文化を築く学びあうまちをつくり、とございますが、かつての黒石領であった今の伊達郡川俣町と文化交流都市としての事業を、時間をかけながら進めていかれることを、高樋新市長に心から望むところでございます。

それでは質問に入らせていただきます。

1、市長の選挙公約の自立した黒石について。

ア、定期的に市民との対話を行う、市民参加型の市政についてお知らせください。

イ、世界観を持ち、文武両道を重んじ、常に思いやりのある心を大切にする人づくりについてをお知らせください。

ウ、新たなる農業に対応するための基盤整備について。本年は国際連合で採択された国際家族農家年でございます。黒石市は、全国でも唯一のりんご技術栽培研究拠点として、青森県りんご技術研究施設を有し、県内初の定置式りんご防除組合が浅瀬石山でスタートし、今年で50周年を迎え、先ごろ盛大に記念式典が挙行されています。また、名誉市民でもある渋川伝次郎氏など、りんご栽培技術や生産に貢献された多くの市民がこれまで研鑽精進を続けられ、今まで営々と県内におけるりんご栽培技術の先覚者としてその地位を確立しています。若いりんご生産後継者も順調に育成され、将来に大いに期待されていて、黒石りんごに明るい兆しが見えています。そのような黒石において、りんごに特化した情報発信と人材の育成を努めていくのが、私たちの使命でもあるとも考える1人でございます。そのためには、市制施行60周年を

契機として、これから迎えるでございましょう100年に向け、絶好の機会としてとらえ、りんご栽培技術のさらなる集積と、全国に世界に向けた情報発信を積極的に展開する必要があると考えているところでございます。そのためには、市内の各関係機関が一致結束して、その集積を図るべきであると考えているところでございます。そのことが、新市長が掲げる新たな農業戦略にも大きく寄与するものと確信しているところでございます。そのためには、その主体的な役割を果たすのが、今こそ行政にあるのではないのでしょうか。農協をはじめとする関係各機関や市内の農業生産に携わる市民の声を反映させ、黒石市を全国に情報発信させていったらどうでしょうか。行政機関の中に、りんごに特化した部署を創設する考えはあるのかどうかでございまして。一例を挙げれば、新市長がお考えの農林部と商工観光部を分割する中に、特に、農林部にりんご課を創設することなどでございます。

全国に向けて りんごの街黒石を情報発信する考えはあるかどうかでございまして。これまで、黒石りんごに特化した販売戦略や情報発信は、ややもするとその他大勢の中で取り残された感じがあります。前市長さんが盛んにトップセールスを展開してまいりましたが、前市長さんが苦勞した結果がなかなか農業者の所得として目に見えなかったのではないのでしょうか。ここは心機一転、新市長のリーダーシップ、突破力で黒石市の魅力をりんごに託し、積極的に推進すべきであると考えます。そのためには、先ほど質問いたしました、新りんご課が主導して、情報の収集と発信力を向上させるべきと考えますが、この考えについてどのように進めていくのか、お考えをお尋ねいたします。

行政機関の中にもりんごに特化した部署を創設するお考えはあるのでしょうか。

全国に向け、りんごの街黒石を情報発信する考えはあるのでしょうか。

他の行政にてりんご世界遺産登録を上げておりましたが、これはりんご王国青森県全域のことであり、特にここ黒石はりんごの聖地としての条件があります。それは旧りんご試験場、今のりんご研究所があることです。りんごの品種改良、病虫害の予防など、世界で唯一の研究所、世界でただ1つの研究所です。また、研究所の中には、樹齢100年以上のりんごの木は何本くらいあるのかも知りたいところです。

次は、グリーンツーリズムを産業として育成することと、スローフードの取り組みについてでございまして。県内グリーンツーリズム11団体、県受入協議会設立されておりますが、その後山形地区では事業として内容はどのように進んでおられるのでしょうか。

グリーンツーリズムは、農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動で、ヨーロッパでは農村に滞在し、バカンスを過ごすという余暇の過ごし方が普及しています。フランスではツーリズムバール、緑の旅行と呼ばれています。フランスがツーリズム発祥の地です。旅人を受け入れている山形地区、花巻、温湯ですが、現在までの実態はいかがでしょう

か。

何件ほど登録しておりますでしょうか。

新市長は、これからどのようにこのグリーンツーリズムに手を加えることをお考えでしょうか。

ツーリズムベール、緑の旅行と考えますと、新緑から深い緑の深緑、今の季節が最高の受け入れの時期と思います。青いりんごを見る、宿泊なしでの受け入れ、春から夏にかけての薄もみじツアーなど。旅人の足は、カゴから馬車、列車からバス、新幹線、飛行機と時は流れ、青森港に次々寄港する豪華クルーズ客船、オプションツアーで日本の農業の姿に触れる体験、そして観光する日帰りツアーなどの取り組みは、お考えでしょうか。

今年度、青森港に寄港する大型クルーズ船は延べ20隻。今日まで15隻が青森港に入港しました。その代表格はダイヤモンドプリンセス、11万5,000トン、乗客定員2,674名。外国籍のお客様も多数乗船されています。8月7日、青森花火大会の予約席数1,200席が、クルーズのお客様でした。青森市沖館の岸壁から市内に近いこと、オプションツアーは、船舶から1時間30分以内に観光地があることが条件のようです。例として、弘前コース、黒石コースが売り込めるとお聞きしております。中野もみじ山、こみせ通り、松の湯、澤成園、こけし館、こけし絵付け、山形地区の青いりんご園鑑賞などです。中野もみじ山境内において日本の文化、お茶セレモニー野立てが外国人の心を引き付けることと思います。

グリーンツーリズムを産業として育成する案としての質問でございます。

スローフードの取り組みについて。イタリア、ブラという町が発祥地、今は食育としてその土地の子供たちを巻き込んでおります。

その土地で育てられた、体に安心、安全な素材を生かしての食です。柱となるのが農家・生産者、それを支える人、そして子供たち。地酒。場所は山の中、民家、畑の中。おふくろの味、田植料理がベストです。化学調味料は一切使わず、昆布、だし、野菜から味をとる。

弘前、山崎レストランシェフが小学校に食育講師として出前しております。

2003年からスローフード協会設立、今年で11年目。県内約30箇所。そこで黒石市はこのスローフードの取り組みをどのように進めていかれるのでしょうか。

オ、経営感覚を持ち、常にPDCAを大切に行政運営についてです。典型的なマネジメントサイクルの1つで、計画プラン、実行ドゥ、評価チェック、改善アクトのプロセスを実施する。この螺旋状のプロセスを繰り返すことによって品質の維持、向上および継続的な業務改善活動を推進するマネジメント手法がPDCAサイクルです。P計画、これからする事を考える。D実行、計画した事を実行する。C評価、結果がよかったか悪かったか判断する。A改善、見直しをかけて、次の計画に進む。このサイクルを、どのような形で黒石市政に生かすお

考えなのか、お聞かせ下さい。

カ、小さな行政を念頭に、地区連絡協議会とともに、住民サービスの向上に努めることについて、お伺いいたします。

キ、広域行政の視点で考えた効率の良い行政運営について、お伺いします。

2、徘徊高齢者対策事業について。

ア、導入経緯と現状等についてです。平成26年7月14日、黒石市役所において、黒石市、平川市、田舎館村の2市1村が、徘徊高齢者見守り事業における広域連携協定を締結いたしました。県内の市町村に先駆け連携協定を締結されたこと、鳴海前市長の先見の明の確かさ、行政手腕に対しまして、改めてその行動力の敏速さに敬意と尊敬の念を抱く1人でございます。

高齢化の進展とともに、社会問題となっている認知症高齢者の行方不明問題が深刻化している昨今、今後、ますます増加するでありましょうこの問題に、いち早く取り組んだ対応に、改めて評価を示すものでございます。

5月11日に放送されたNHKスペシャル「認知症800万人時代、行方不明者1万人、知られざる徘徊の実態」を御覧になった方も多いと思います。NHKスペシャルでは、2007年に群馬県館林市で保護されましたが、7年間も身分がわからない女性に取り上げられ、その後、報道を契機に無事に御家族のもとに帰られたことが報道されました。御家族の方は、当然のように警察に届け出をし、警察も顔写真を載せた公開チラシを作成し、情報の提供を待ちました。しかしながら、7年もの間、音信不通の状態が続き、家族の方々の苦悩は長く続きました。この事例からも理解できると思いますが、あすは我が身、徘徊高齢者の問題は、決して他人事ではないのでございます。

市内においても、そのような徘徊高齢者の事例が発生していることも事実であり、市内の高齢者が青森市や弘前市、田舎館村で発見されていることも明らかになっています。これらは冰山の一角であると言っても過言ではないと思います。無事に発見、保護されればそれでよいとするのかは分かりませんが、最悪の場合、命を失うことにもなりかねません。そのようになってからでは遅いのです。

そこで高樋新市長さんにお尋ねいたします。

今後、この事業をさらに広域に展開し、弘前圏域定住自立圏の全域はもとより、青森県全域に拡大する考えがあるかどうかでございます。この事業は単独の市町村で解決できることではないと考えることから、ぜひ、新市長さんにはその行政手腕を発揮していただきたいと思い、県当局に対する働き掛けを早急に取り組んでいただきたいと思います。この事業の進捗にあたり、具体的にどのように取り組んでいかれるのか、市民に対する理解と周知はどのように取り組んでいかれるのかお尋ねいたします。さらに、関係団体や機関とどのように連携するのか具

体的な内容をお知らせ下さい。

この事業の進展には、大きな壁が立ちはだかっていると思います。それは、個人情報の保護、プライバシーの問題であるかと思います。御家族の中には、御自分の家族の中に認知症の高齢者がいることを知られたくない、秘匿しようとする傾向が強いということでございます。今、考えられている内容では問題点がないのか、改善を加える必要はないのかとあわせまして、この壁をどのように打開していくのかお尋ねいたします。

昨今、地域コミュニティの希薄化が叫ばれて久しい状況であります。この事業の進捗・浸透には地域力が必要不可欠だと思います。隣近所のコミュニティの復活が大きく左右するものと考え、尊い命の尊厳を守る意味からも地域力の向上が大きな鍵となることから、福祉コミュニティのあり方を活用する必要があるかと思っております。

以上の観点から、徘徊高齢者対策事業の効果的な運用方法について、全県的な気運の醸成を高めていただくよう、高樋市長さんのリーダーシップに期待し、理事者側の明確で具体的な御答弁をお願いし、壇上からの一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 黒石ナナ子議員に御答弁させていただきます。

先ほど、羽州街道の交流会のお話をお聞きしました。ちょうど私も就任時にぶつかっただけです。ですから、行けなくて大変残念でありました。高橋町長さんからも大変いろいろなお手紙等々もいただいて、大変私も関心を強くしているところであります。これからも川俣町ともですね、いろんな面で交流を深めていければなというふうに考えている次第であります。

市長の選挙公約の自立した黒石についてであります。

最初に、定期的に市民との対話を行う、市民参加型の市政についてであります。

先程、中田議員にもお答えさせていただきましたけども、市民との対話につきましては、必要性はあると考えておりますので、これから各種団体の方々との意見を交換した上で、体制整備に努めてまいりたいと考えております。

世界観を持ち、文武両道を重んじ、常に思いやりの心を大切にする人づくりについてであります。

人づくりという部分では、教育が重要な役割を担っており、小中一貫も視野に入れた長期スパンで教育を考え進めていくことが、最終的に目指す人づくりにつながっていくものと考えております。

新たな農業に対応するための基盤整備についてであります。

まず、米についてでありますけども、黒石市は良質米の生産地であります。これからは米でほかの地域に対抗できる競争力をつけていくことが必要でありますことから、そのための圃場の区画整備や再圃場整備を検討しながら、省力化を推し進めてコストの削減を図り、生産力アップにつなげていきたいと考えております。

りんごにつきましては、先ほど大久保議員にもお話させていただきましたけども、生産農家の後継者不足、さらには消費者ニーズの変化などりんごを取り巻く状況が大きく変わってきております。特に山間部におけるりんごづくりでの豪雪の影響を受けるなどの悪条件が、後継者不足にさらなる拍車をかけております。そのため、山間部から平場への移転やわい化の促進により、作業の効率化を図り就労意欲を持てる環境を整えていくことが必要でありますので、りんご園地の基盤整備に取り組んでいきたいと考えております。

次に、グリーンツーリズムを産業として育成することと、スローフードの取り組みについてであります。

グリーンツーリズムは、農村を訪問して、その自然と文化や人々との交流を楽しむ余暇活動であり、海外の方々から要望がふえていることもあり、期待できる産業の1つでもあります。また、スローフードへの取り組みは、安心安全な食としての地産地消を推進するものであり、食育や農家の所得向上にもつながってまいります。そこで、グリーンツーリズムを行うことは自分たちが栽培した農産物を料理の材料として提供する機会となりますし、農家の所得向上にも望めることから、スローフードもあわせたグリーンツーリズム産業を育成するため、多方面から評価される仕組みを研究したいと考えております。

次に、経営感覚を持ち、常にP D C Aを大切に行政運営についてであります。P D C Aサイクルは、先ほど黒石ナナ子議員がお話してましたように、民間の経営サイクルの1つでもあります。このマネジメントサイクルを行政運営に取り入れることによりまして、行政運営を経営という視点で見直し、事務事業の成果やコストを重視する行政経営の仕組みであります。以前の行政運営は、事業を計画し、その事業にどれだけ予算をつけて、どれだけ事業を実施したのかという、行政サービスの量に重点を置いてきたようであります。財政状況が厳しくなる中で、今までのような行政運営を行うことは困難な状況になっております。このため、限りある財源を有効に活用し、可能な限り市民サービスを向上させるためには、行政サービスの質に重点を置くことが大切になり、そのためには、これまでの行政運営に評価を加え、さらに評価した結果を次の計画や予算、事務事業の見直しなどに反映していく取り組みが必要だというふうに考えております。これらの取り組みについては、これまでも市として実施しているところですが、これまで以上に職員の目的意識やコスト意識などの意識改革を図り、行政運営全般について、P D C Aサイクルを継続的に循環させる経営システムを確立し、適切な事業手法の選



択や、限られた人員、予算、時間などの資源を有効的に配分し、より効果的で効率的な行政運営を実現していきたいと考えております。

次に、小さな行政を念頭に、地区連絡協議会とともに、住民サービスの向上に努めることについてであります。

先程、中田議員にもお答えいたしましたけども、公共施設の維持管理や市行政事業の実施など、さまざまな可能性を各関係機関と情報共有を図りながら検討していくとともに、自立した黒石、小さな行政を目指して各地区連絡協議会と連携し、住民サービスの向上に努めていきたいというふうに考えております。

広域行政の視点で考えた効率の良い行政運営についてであります。広域での行政運営は、これからの人口減少社会において当然必要なことであるというふうに考えております。昨日、行われました弘前圏域定住自立圏での会議でも、各市町村長さん方から人口減少に対しても、このことに対して圏域で考えて行っていただきたいというお話も出ておまして、そのような方向で今話も進むようでありますし、また、自治体病院の再編も広域行政で行うべきだというふうに考えております。いろいろな分野での広域的な対応できるものは、広域で対応する仕組みづくりを検討していかなければいけないものと考えております。私からは以上です。

降壇

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） りんごに特化したりんご課を設置してはどうかという御質問でしたが、先ほど市長が大久保議員にお答えしたとおり、農林商工部を農林分野と商工分野に分離し、それぞれに特化した施策について、より一層機動性を発揮できる組織にしたいと、そのように考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、まず、りんご研究所の中にある樹齢100年以上のりんごの木について、まずお答えいたします。問い合わせしたところ、明治34年植樹の樹齢114年、品種としては国光の木が3本あるということでございました。

次に、議員御提言の世界遺産登録につきましては、青森県にその旨、こういう御提言があったことを伝えたいと思います。

次に、グリーンツーリズムに関して、まず取り組みの農家数についてですが、現在、16件の農家民宿施設で、国内の修学旅行生、海外研修生を受け入れ、りんご園での農作業、りんごおやつづくりなどの体験を行っております。8月4日には、農家民泊で来日した、タイの大学生男女9人が市役所のねふた運行に参加し、翌5日には、桃の収穫作業体験を行っております。

次に、日帰りの取り組みについては、その体験も実施しております。

それと、スローフードの取り組みについてですが、まずは自分たちが栽培した農産物を料理の材料として提供する地産地消の取り組みが、子供たちの食育と農家の所得向上につながり、グリーンツーリズムを産業としてこれも育成できるものと考えております。市では、平成27年度まで5年間を目標とした食育推進計画というものを立案しております。この中に地場産品のもちろん消費も打ち出しておまして、特に各小学校では地場産品、いわゆる野菜やお米の栽培・収穫、あとは調理実習などの体験学習を取り入れております。

最後に、大型クルーズ等の取り組みのお話がございましたが、これらにつきましては旅行エージェントとかなり早い時期に、そのマッチングをする必要があります。本年、JR東日本では、中野もみじ山の例のあの川床の話をですね、取り上げていただいて旅行商品として増設していただいておりますが、これらも相当早い時期にマッチングしないと、まず旅行日程に組み入れてもらえません。したがって、こうした取り組みが可能かどうかについては今後、可能性を追求してまいりたいと思います、以上です。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは、徘徊高齢者の対策事業についてお答えをいたします。

当市では平成24年度から、県内の他自治体に先がけて認知症徘徊高齢者に対する対応策の検討を始め、黒石警察署並びに関係団体との協議を経て、平成25年度から認知症高齢者徘徊見守りカード交付事業を開始しました。この事業は徘徊したり、徘徊の恐れがある認知症高齢者を市に登録をしていただき、登録者に名前・登録番号・連絡先等を記載した名刺サイズのカード、見守りカードと、服などに縫いつけるワッペンを交付し、これをつけた人を見かけた市民が警察に連絡し早期発見・早期保護につなげようとするものであります。議員もおっしゃったように、先般NHKの報道や新聞各社の報道で、全国で認知症による徘徊でそのまま行方不明になる方が、年間大体9,600人ほど、その内大体350人ほどは死亡が確認されていると。それからいまだに行方が分からない人が大体100人以上いるということで、社会的な反響を呼んだことは皆さんも御存知だと思います。本県でも、昨年1年間で大体、警察に行方不明の届出があった認知症の高齢者の方は28件あるそうです。当市では、警察でははっきりと件数は言えないということで出ておりませんが、複数件あるのは確認しております。

さて、この認知症徘徊高齢者の見守りカード交付事業について、現在3人の方が登録されております。もっともっとたくさんいるんでしょうけども、登録っていうのは先ほど議員もおっしゃいました、プライベートのこともあるので家族の方が了解をして、事業の内容を了解した上で登録するというので現在3人いらっしゃいます。

それから、居住市町村以外で発見されるケースが多々あるということで、当市では昨年春、

弘前圏域定住自立圏連携施策として定住圏のほうに提案をいたしました。正式に文書で。ところが、一部市町村ではプライバシーを重んじるということを言われまして、理解が得られなかったということで、当面、黒石市単独で事業を開始したというところでございます。ことしに入って、昨今の報道等がありましたので平川市、田舎館村は広域でやるということに合意をされて、先般協定を結んだということになっております。今後、再度弘前の定住自立圏、弘前とは言いませんけども、一部自治体です、弘前の定住自立圏のほうに再度この提案をしていきたいと思いますが、ことしについてはもう先般の首長会議でこちらの連携策決まってしまうので、来年に向けてまた動いていきたいというふうに考えております。

次に、住民等の理解、それから関係団体との連携ということですが、住民の見守りを得るためには、この制度を周知して皆さんに理解してもらわないといけないので、広報誌、それから毎戸に対するこの制度の内容のチラシ、それから研修会などを活用して周知を図っていききたいというふうに思っております。それから、登録情報については黒石警察署とは共有いたします。ただ、協定を結んでいる他の自治体には、行方不明の届けが出た際に互いの情報をやりとりすると、それまでは他の自治体とのやりとりはしないので、そこの自治体だけでも持っているということで進めてまいっております。行方不明が発生した場合には、民生委員とかその辺にも連絡をして近隣を探していただくということも想定をしております。

最後に、プライバシーの保護について問題はないのかということですが、服に張るワッペン等は本人が認知症であることや徘徊をしていることを示すことになります。まあ、認知症の人がつけるワッペンをつけていますので、そのため、個人の情報の取り扱いには十分注意しなければなりません、家族の理解と合意の上で登録した方だけに配付をします。みんなにやるわけではなくて、この事業を理解して、大変困っていると、徘徊で、そういう家族が届けがあった人にそれを交付するという事なので、一応了解を得てやるということなので問題ないというふうに考えております。一部自治体には、人権に触れるのではという御意見もあります。人権も大切ですが、人命はもっと大切です。その辺を定住でも話をしていきたいと思っております。死んでしまえば何にもなりません。その辺はなかなか自治体でも温度差があるんですけども、うちは人権よりも人命を尊重したいというふうに考えております。今後、この制度を市民に広く周知して、市民だけでなく、まあ今のところは平川・田舎館、あとことしうちに大鰐も入る予定ですので、黒石警察署管内の自治体では同じような取り扱いをしていくというふうに考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問に入るんですが、黒石議員にちょっとお願いがあります。質問内容

を聞いてみますと、通告外に及んでいる部分があると議長は思う。それがどこを指すかと言いますと、新たな農業に対応するための基盤整備についてと、こう通告があります。が、ここで世界遺産を聞いてるんですね、言葉の中で。通告がありませんから、以後気をつけてください。

通告があればそれでいいんですが、通告にないものですから。基盤整備で世界遺産を聞くのはどうなのかなという感じは議長はあります。よって、気をつけていただきたいと。その旨の再質問は許可しませんということです。世界遺産に対しての。

再質問を許します。黒石議員。

◎3番（黒石ナナ子） 市長さんをはじめ、理事者側の非常に心温まる御答弁ありがとうございました。ただ今、議長のほうからりんごのこと言われましたので。それはさておきまして、グリーンツーリズム。この件なんですけれども、黒石のほうの山形地区のほうでグリーンツーリズム、温湯と宿泊受け入れですね、それは何件ほどあるのかと。それと日帰りのほうのツーリズム、宿泊なしで。このグリーンツーリズムっていうのはB&Bとって、フランスが発祥の地でベッドとブレクファストということで、夕食はなしで泊めるということのグリーンツーリズムなんです。料金も、ちょっと言っているんでしょうか、2,000円くらいで泊まって、それ以上高くなりますと、保健所のほうのちょっと難しい問題があるというのもお聞きしております。それはまあ上手な料金なんでしょうけれども、このグリーンツーリズムって花巻のりんごのワインは一緒なんでしょうか、それともまた別個なんでしょうか。それを1つ聞きたいということと、このスローフードなんです。スローフードというのはイタリアのブラでして、どちらかと言いますと無農薬がメインなんです。で、あの……

◎議長（村上啓二） 一問一答ですよ。

（「そうだ、ごめんなさい。はい、1つ1つ。すいません、じゃあそのところよろしく願います」と呼ぶ者あり）

◎議長（村上啓二） 我々も手探りですけども、ルールだけは守ってください。でないと議論が変な方向に行ってしまうので。はい答弁。農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 今、お尋ねの再質問につきましては、先ほど一括して答弁、大半が答弁しておりますが、確認しますと取り組みの農家数はまず現在16戸でございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 3番。

◎3番（黒石ナナ子） そのワインのことはどうなっているのかちょっとお聞きしたいと思いません。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） ワインの取り組みについてでございます

すが、現在ワインの製造は行っておりません。ただ、残ったワインは津軽伝承工芸館において購入できます。以上です。

◎議長（村上啓二） 3番。

◎3番（黒石ナナ子） じゃあワインに代わって何か別の事業か何か興してるんでしょうか。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） ワイン以外の二次加工品の取り組みについては確認しておりません。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 3番。

◎3番（黒石ナナ子） ありがとうございます。

次は、スローフードなんですけど、このスローフードというのは全国、私実は弘前のメンバーで、10年前から入っております。で、年に1回収穫祭というのがありまして、その時の弘前の地産地消の場合は全部無農薬です。量は少ないですね。でも、すごく人数が集まってそれを食べております。黒石でこれを形にするとすると黒石のどこかのレストランかお食事処で、そういうつくった野菜を集めて市民の皆様にもちょっと施して、これがスローフードでございますみたいなのを高樋新市長さんのところ、今からオープンして黒石で始まっていたらいいかなと思いますけど、市長さんいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） スローフードにつきましては、いろいろ議員から御質問いただいて答弁させていただいてますけども、やはりグリーンツーリズムと連動させていかなければいけない問題というふうに考えています。ですから、まずはグリーンツーリズムを行う農家の方々のスローフードに対する意識をまず持ってもらう。その上で、観光客、おいでになっている方々にそれを実感していただくということが大切なのでないかと。今、議員提案のように、多くの市民の方々に理解を示していただくということも大変重要でありますので、そのことについてもこれから検討していきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 3番。

◎3番（黒石ナナ子） 市長さんありがとうございました。

グリーンツーリズムとスローフード一緒ということで、ありがとうございます。そのように私もまた、前向きに考えていきたいと思っております。

続きましてですね、徘徊高齢者対策事業というのを、先日の新聞にも載ってまして、徘徊者が県境を越えて移動していくと、これはもう自治体ごとの対応も限界が来ているという見出しでございました。このわたしたちの黒石では、SOSネットワークをつくる自治体がふえてるんですけど、この黒石ではいかがなんでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） SOSネットワークというのは基本的にどこの市町村もあるというふうに認識しております。その中で、特にうちほうは徘徊高齢者の見守りカード事業をしているということでございます。

◎議長（村上啓二） 3番。

◎3番（黒石ナナ子） こちらの徘徊のほうの事業なんですが、福祉関係や郵便局、タクシー協会など、情報を伝えて検索する仕組みというのは、この黒石ではちょっと聞いたことないんですけれども、いかがなものでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 今のお話ですが、先般の協定を結んだ際に、運送業者の方、例えばタクシーとか、うちほうで今高齢者の安否確認をクロネコヤマトと協働でやっていますけども、そういう運送業の方とかその辺と協定を結んで、一番走ってるトランスポーターの方々が見た時にも通報していただくというふうな形で今進めております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 3番。

◎3番（黒石ナナ子） はい、ありがとうございました。

この徘徊というこの言葉はあまり皆さんは好きじゃない、私も好きじゃないんですけれども、いつかは行く道でございます。今は全国的にも3人に1人、4人に1人とされておりまして、行く道でございますので、こういう形のをしっかりと行政に根づかせて、そして市民みんなが1つになって目を光らせて、なくするように、命を落としてしまえばだめなんだということを健康福祉部長さんもおっしゃっておりますので、それは同感でございます。そのようにして、守っていただけたらいいかなと思っております。

本当にありがとうございました。市長さんも、そして理事者側の御答弁ありがとうございました。

◎議長（村上啓二） 以上で3番黒石ナナ子議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、9番大溝雅昭議員の登壇を求めます。9番。

登壇

◎9番（大溝雅昭） こんにちは、自民・公明クラブの大溝雅昭です。

7月18日に高樋新市長が誕生いたしました。おめでとうございます。新市長の誕生とともに黒石市が新しい市長の感性とリーダーシップのもと、新たな飛躍を迎えるのではと大いに期待申し上げます。

さて、黒石市の夏祭りが終わろうとしています。ロックフェスもありました。ねぷたまつり、よされの流し踊り、大川原の火流し、ふるさと元気祭り、そして、よされのまわり踊りが今日まで駅前広場で行われます。黒石の長く多彩な夏祭りはほかにはできない、黒石市民の誇りと文化だと思えます。しかし、残念ながら弘前のねぷた祭りでは死亡事故が起きました。亡くなられた方にはお悔やみ申し上げます。祭りも途中で中止になり、団体も解散いたしました。黒石市でも数年前に大きな事故があり、牽引方法などが見直されました。黒石のねぷたも弘前と同様、昇降機能があるねぷたが多くあるので、事故が起きないように注意していただきたいと思えます。

それでは通告に従い、質問をいたします。

市長の公約で、先ほど登壇した大久保議員と質問の内容がかぶるところもありますが、私の視点でお聞きいたします。

1つ目、は市長の公約についての質問であります。

アは、市長の公約の古い街並みを大切にす観光についてであります。

具体的な内容は何なのか。整備の進め方はどう考えているのか。こみせ通りの整備とさらなる拡充が必要であるし、電柱の地中化なども必要であります。そのほかの整備はどうかお聞きいたします。

また、こみせと旧松の湯と金平成園との連動は、どのように考えているのかもお聞きいたします。

イは、市長公約の市民みんなで考え、市内外の方々と楽しめる夏祭りの考えについてであります。

どのような方法で市民みんなで夏祭りについて考えるのか。組織、時期、方法などをお聞きいたします。

ウは、市長の公約の、市民スポーツ力向上についての考えについてであります。

スポーツと言っても、競技スポーツ、レクリエーションスポーツなどに分けられます。どれをどのように向上させるのでしょうか。

また、学校の部活動の変化の中で、青少年スポーツの支援が遅れています。特に小学校では、国の方針として部活動から地域のスポーツ少年団、スポーツクラブに移行しようとしているのに、その支援の形が変えられていません。スポーツ少年団、スポーツクラブを登録制にして、東北大会や全国大会へ出場する場合の支援ができないか。そういう考えはないか質問いたします。

また、指導者の育成についてはどう考えているのかお聞きいたします。

もう1つ、市民体育大会がなくなって大分たちますが、市民体育大会の、時代に即した内容、

形での復活はできないかという質問をいたします。隣の弘前市では地域ごとに体協があり、競技会を開催しております。その結果があるのかわかりませんが、県民体育大会では、弘前市が3年連続市の部で優勝しております。黒石市は残念ながら8位でありました。市民にスポーツに触れ合う環境づくりが必要だと考えます。そのためにも、市民体育大会のようなものが必要だと思います。中止に至った理由を分析し、今の時代にあった形での開催を模索してはいかがでしょうか。答弁をお願いします。

2つ目は、ことしの夏祭りについての質問であります。

アは、黒石ねふた祭りについてであります。

祭りの結果はどうだったのか。新しい取り組み、よかった点、問題点はなかったのか。参加台数、観客数についてお聞きします。

また、先ほど述べましたが弘前ねふた祭りで悲しい事故が起きました。黒石では事故などの状況はどうだったのかをお聞きいたします。

また、人形ねふたをふやすための新規参加に対する助成について昨年質問いたしましたが、検討の結果はどのようになっているのかお聞きいたします。

イは、黒石よされについてであります。

祭りの結果はどうだったのか。新しい取り組み、よかった点、問題点についてお聞きいたします。

また、観光客にもっと来てもらい、観客が踊りにもっと参加、楽しんでもらう方法はないのか。参加型の観光の取り組みについてお聞きいたします。

3つ目は、福祉バスの運用についての質問であります。

アは、現状と問題点についてであります。

使用団体、使用回数、料金のほうはどうなっているのか。また、利用料金について現状でよいのかお聞きいたします。

イは、他団体等の利用はできないかということであります。

福祉バスを利用したいという要望がよくあります。福祉バスは他の団体が利用できないのか。また、できないのであればほかの方法はないのかお聞きいたします。

今、マスコミでは地方議員のあり方が問われております。黒石市議会は議会基本条例の制定、議会報告会の開催、議会だよりの発行、そして今議会より一般質問での一問一答方式を取り入れております。これも黒石市の市議会の議会改革の一環であります。しかし、議員、理事者双方まだ慣れていないので、かみ合わないところがあるかと思いますが、そこをなんとかよろしく御答弁をお願いいたします。以上をもちまして壇上よりの質問を終わります。ありがとうございました。



(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 大溝議員にお答えいたします。大溝議員におかれましては、横町十文字まちそだて会等々のイベントにいろいろな面で参加、御協力いただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

質問の市長の公約についての、古い街並みを大切に作る観光についてであります。

先ほど、大久保議員に答弁いたしましたとおり、こみせ通りを代表とする歴史ある街並みや、点在する数多くの趣ある建物等があり、これら大切な地域資源を保全・活用することが重要だと考えております。今後、旧松の湯の再生によるくつろげる空間の創出や、こみせ通りの電線類の地中化や、路面整備により景観形成を図るとともに、地域の方々とこみせの復元を進め、さらに魅力ある通りにしたいというふうに考えております。また、現在進めている景観計画の策定、運用により行政、市民、事業者が共同で黒石らしい街並みを守り、育て、つくりながら、親しみと愛着と誇りの持てるものとして次世代に引き継いでいきたいというふうに考えております。こみせの旧松の湯と金平成園との連動でありますけれども、黒石らしさを象徴する施設であり、市民のみならず、来訪者にも期待されている大きな資産であるというふうに考えております。そのことから有機的に結び、相乗効果を高めるため、回遊ルートの確立に取り組んでまいります。

次に、市民みんなで考え、市内外の方々が楽しめる夏祭りについてであります。

今後の進め方につきましては、大久保議員にお答えしたとおりであります。主催団体だけでなく、参加団体や市民も取り込んで話し合いの場を設け、その中からより良い方向を見出したいというふうに考えております。地域等につきましては、これから検討していきたいというふうに思っております。

市民のスポーツ力向上についてであります。

競技スポーツの向上については、先ほど大久保議員に答弁しましたように、練習場所の確保を優先するとともに、指導者の育成を考えております。また、レクリエーションスポーツは、気楽にできるレクリエーションスポーツの推進に努めるとともに、新たな軽スポーツを周知してまいりたいと考えております。

スポーツ少年団等の支援についてであります。学校単位の部活動と同様に補助できないか検討してまいります。

指導者の育成につきましては、現在公益財団法人日本体育協会が推進している公認スポーツ指導員として、当市から10人程度の登録があると伺っております。今後、スポーツ活動に協力

していただき、競技力の向上につなげたいというふうに考えております。

最後に、市民体育大会の復活については、参加者の減少などにより休止いたしておりましたが、競技種目や参加規則などの変更を踏まえ、各地区や競技団体などと協議し、再開できるかを考えてまいります。私からは以上であります。

降壇

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは、福祉バスの運用についてお答えをいたします。

使用団体、使用回数、料金についての考え、それから福祉団体以外の団体への貸し出しについてどう考えるかということですが、平成25年度の使用回数は、バス2台ありますけども292回、1日平均で1.25台、1台は毎日動いてると、1台足りないということですね。7,327人の利用でした。主な利用団体は老人クラブのほか、社会福祉団体、障害者団体、児童福祉団体などでございます。料金については現在はいたっておりません。ただ、昨今、燃料費の高騰、それからバスそのものが大変古くなっておりますので、出るたびに故障いたします。その修理代等が増大しているということで、他自治体の利用状況とか調査をするなどして、利用料については今後、若干検討していきたいというふうに考えております。

次に、福祉バスの利用団体については、黒石市社会福祉団体等のバス使用に関する要綱に定める社会福祉団体を使用対象者としております。そういうことから、その他の団体への貸し出しはいたしておりません。他の団体に貸せないかということなんですけども、今言ったように社会福祉団体だけでとりあえず1日1.25台ということは2台全部使っていると。たまたまあいていても、じゃあどこまで貸してどこまで貸さないのかということもあるし、その辺はなかなか難しいところがあると思います。基本的に福祉バスというのは、福祉団体がお金がありませんのでということが始まりだと思っておりますけども、そういうことでスポーツ団体とかそういうところは自己負担をしていただきたいというふうに考えておりますので、今後も福祉バスについては他団体への貸し出しはする考えはございません。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） それに関して、ほかに方法はないのかということでございますが、福祉団体以外の利用については、もう1台福祉バス以外にバスがあればいいのでありますけれども、現在の財政状況等、非常に厳しい状況で、今の段階では購入は難しいものと考えております。しかしながら、市民の要望でもございますので、他自治体の状況等を今後、調査、検討してまいりたいと、そのように考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、ことしの夏祭りについてお答えいたします。

まず、黒石ねふた祭りの状況についてでございますが、入込数では主催者発表によりますと、7月30日の審査日、8月2日の表彰日両日とも3万5,000人で、2日間の合計では7万人、自由運行期間を含めると合計13万人となり、前年より1万人増となっております。台数に関しましては、63台が参加しておりますが、内訳は初参加が2団体、3団体が参加を見送っておりますので、1台減少となりました。なお、人形ねふたは、ことしも昨年同様6団体が参加しております。

新しい取り組みとしましては、観光客のマナー意識を高めるため、ごみ箱、灰皿の設置場所を少なくしてみました。また、横町十字まちそだて会では、夏体験ツアーとして、ツアー参加者を实际祭りに参加する町内会のねふた小屋に案内し、ねふたの歴史や裏話を聞かせたり、太鼓、笛の体験などを実施し、地元の方々とふれあいを行ったと伺っております。

問題点といたしましては、ねふた運行の最終日に、寄附をいただくため民家を回る時間帯が、早朝で早すぎるとの苦情が1件、ねふた運行中の街灯破損が2件あったと報告を受けております。なお、事故の報告は受けておりません。

次に、人形ねふたをふやすための新規参加に対する助成の検討結果、あるいは減らさないための助成の拡充についてお答えいたします。このことにつきましては、平成24年度から人形ねふた製作運行奨励金として1体につき12万円補助しておりますが、昨年、議会の御質問にもありましたので、主催者との意見交換を早速行い、その際に助成金問題だけでなく、少子高齢化による子供の参加人数が減少していることや、ねふたの運行に関わる大人の参加人数の減少などさまざまな問題が生じていることが改めて浮き彫りとなったため、この問題についてはお金の問題だけじゃないということも含めて、引き続き継続して検討課題とさせていただきました。

次に、よされについてであります。8月15日、16日に開催された黒石よされ流し踊りの入込数ですが、1日目の雨天の影響もありましたが、2日目は天候にも恵まれ、2日間で7万9,000人、対前年比で1,000人の増加、参加団体数は2日間で33団体、3,800人、対前年比で1団体増加、500人減少となっております。新しい取り組みとしては、参加者の利便性を考慮し、給水所の増設、また、こけしの里黒石市のPRを兼ね、昨年、市役所駐車場に大型こけし灯籠の設置に続き、今年度は市役所駐車場、旧大黒前、回り踊り会場である駅前公園の3カ所に3.6メートルを2体、それから1.8メートルのこけし灯籠を28体設置し、来場者に楽しんでもらえるような工夫をしたところ、灯籠の前で記念撮影をする観光客がいるなど、演出に一役買っていると感じております。

よかった点、問題点についてですが、ことしは例年に比べ県外からの個人客が目立ったとのことでした。また、8月16日に開催された黒石よされ組踊り大賞では立ち見客が出るほどの状態となったと伺っております。流し踊りでは、中町こみせ通りで人が歩けないほどの人混みとなり、流し踊り2日目では臨時駐車場としている御幸公園が一時満車状態になるなどの盛況ぶりを見せていたそうでもあります。一方では、各参加団体の参加者数が減っている団体もあるなど、憂慮すべき案件も聞き及んでおり、今後、実行委員会の中で検討していくこととしております。

観光客をふやす方策については、ことし当市の横町十文字まちそだて会が、流し踊りの期間にあわせ、「黒石よされ踊り体験&グルメツアー」を企画し、人数は7人であったと伺っておりますが、回り踊りの際にもっと観客の参加をふやせないかという声もあわせ、市長の公約に掲げております市内外の方々が楽しめる夏祭りの実現に向け、市民も巻き込み協議をしていきたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。9番。

◎9番（大溝雅昭） 御答弁ありがとうございました。それでは、順番に従いながら再質問をさせていただきます。

まずは、市長公約の古い街並みを大切にす観光についてであります。こみせを活かした街を大切にしながら、これから旧松の湯そして金平成園と、黒石も新たな観光に向かっていく、本当にいい時期というか転機を迎えて前向きに進んでいかなければならないと思います。それとは直接は関係ないんですけども、やはりそういう古い街並みを大切にすることは、30年後の街並みを考えながら今を考えていかなければならないということがよく言われています。以前の一般質問でも述べたんですけども、市として重要な建物の調査、指定は考えていないのかということでございます。弘前市では趣のある建物指定制度というのがありまして、現在40軒の建物を指定しております。現在、文化財にならなくても、30年後、50年後文化財になるような建物を今から指定するという考え方ですね。今なくなると、単純に50年後はありませんので、そういう建物を守っていくという考え方ですので、黒石もそういう古い街並みを大切にすることはやはり黒石の1番のことですから、そういう長い目で街並みを大切にす必要性があるのではないかと考えますけれども、その点について御答弁をお願いします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 大溝議員の新たな地域資源の指定及び保全という御質問だと思いますけれども、黒石市にはまだ広く知られていない地域資源が眠っており、これらを保全、活用

することにより、黒石らしいまちづくりが推進するものと考えております。その手法として昨年度から実施している黒石市小さなまちかど博物館や、これから制定を予定している景観条例に盛り込むくろいし景観資産などにまだ知られていない新たな地域資源を認定し、広くPRしてまいります。また、まち歩きのコースにも活用し、実際に見て聞いて、その土地ならではのよさを実感していただくことが、黒石らしい古い街並みの保全につながるものと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 9番。

◎9番（大溝雅昭） まちなか博物館もありますけれども、景観資産ということで大事にしていただけということ、なくなってからだと手遅れになりますので、その辺はよろしく願いしますということで、次の質問にいきます。

市長の公約の中で、市民みんなで考え、市内外の方と楽しめる夏祭りということに対してですけれども、夏祭りの見直しということを新市長も考えているようですけれども、以前にも会期の変更などいろいろなことがありました。ただですね、長期的に考えないといけないという、非常に問題がありまして、関係団体だけではなくやはりその上をまとめる、長期的に物を考える人だったりシステムだったり、そういうものを入れないとですね、自分たちの都合のぶつけ合いになってしまう可能性もありますので、その辺も注意していきながら長期的に黒石の夏祭り、大切な祭りを考えていただければと思います。

その中でですね、やはり祭りを通年観光にもっと生かす方法はないのかということをお聞きします。その祭りの時期だけだと、非常にこの黒石のすばらしい夏祭り、もったいないので例えばねぶたを1年間展示するとか、また、よされの祭りの踊りのですね体験ができる場所が必要ではないかと私は考えます。ねぶたの展示についてはやはりこみせ通り、もしくは市の場所であるスポカルイン黒石にもですね、場所がありますので、ねぶたを展示する場所をつくるとか、その中ではですね可能性としては緑町の人形ねぶたは確か嫁に行っていないはずでありますし、追子野木のねぶたもですね正月までねぶた小屋に残してあります。また、境松は2年に1回お嫁に行ってますけれども、人形ねぶたでも何台か見せることができるものもありますし、扇ねぶたにいたってはですね、ねぶた小屋がないから片付けているわけであって、お願いすればですね見せれる扇ねぶたはたぶんたくさんあるはずではないかと思っております。

また、よされの体験についてはですね、これ私の前から言ってる案ですけれども、文化会館の再開を目指すのであれば文化会館の一部をですねよさを通年で体験できる展示スペース、体験スペースを設ければよいのではないかと私の提案であります。そうすればですね、文化会館の再開の意義も、前にあったものを再開するだけではなく、新しい目的を持った文化会館になり、そして隣にですね金平成園が今整備進むわけですから、その中で相乗効果もより出て

くるものと考えます。そういう考えでねぶたの展示、よされの体験をするべきだと私は考えるんですけど、その点についていかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） いやいや、提言ですか質問ですか。

（「提言に対して具体的にこうすればいいということを入れてますので、それに対してお答えを  
お願いしたいと思います」と呼ぶものあり）

◎議長（村上啓二） しかし文化会館はなじまないよ。ないですから。ごめんなさいね。でも行政側答えていいもんだったら答えてください。農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まずねぶた、通年の展示ということでございますが、ねぶた・よされともその概略を知る展示につきましては、以前、津軽伝承工芸館の一室で通常の展示室を設けて設置してありました。現在は民踊体験できるようなコーナーとして模様替えをしております。今後市内でのそういう設置とかということについては、今のところは御提言と受け止めさせていただきます。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番。

◎9番（大溝雅昭） さっきも言ったとおりねぶたにしては、実際ねぶたもあるので可能性としては、例えばよされの今の期間、またはこみせ祭り、またりんご祭りもありますので、そういう時に見せるのは不可能ではないと、それは可能ではあると思いますので、前向きに意見考えていただければなというふうに思います。

次の質問に移ります。市長公約の中の市民スポーツの向上とはについてでありますけれども、今スポーツの向上ですけども、そのためにはやはり指導者の育成が必要であるかと思えます。今スポーツの競技によっては指導員の資格がなければ例えばベンチに入れないとかコーチもできないとか、そういう競技が非常にふえておまして、資格を持った指導者を育てていかなければその競技の発展はないという状況になっております。ですから、今黒石市では十数名という話もありましたけれども、どのような競技に日本体育協会の指導者がいるのか。そして、日本体育協会のスポーツ指導者の育成をですね、やはり数年後には何名やはり黒石ではいなければならぬというふうに目標を立てて指導者を育成してはいかがだと思いますが、その点についてお伺いいたします。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） ただいまの御質問についてですけども、最近のスポーツ大会の流れというのが、県大会あるいは東北大会、そして全国レベル、そうした大きな大会になればなるほどきちんとした資格を持った指導員が必要だというふうになってございます。そこで、現在黒石市で体育協会公認のスポーツ指導員の資格を持っている人は21人、競技別ですとバレーボールが7人、ソフトテニス6人、テニスが3人、フェンシング3人、軟式野

球とバドミントンが各1人でございます。ただこの日本体育協会公認スポーツ指導員の資格取得には自己負担を伴うということもありまして、今のところ市からは取得をお願いするしかできないことから、まずは現在の有資格者をさらにふやしていただけるよう、それぞれの協会に働きかけていきたいと。これについては黒石市の体育協会等と連携して話し合っていきたいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番。

◎9番（大溝雅昭） ぜひとも指導者の育成をお願いしたいと思っております。これはお願いですけれども、昨年、全天候のオムニコートが整備されました。その結果が出たのかもしれませんが、ソフトテニスがですね県民体育大会で見事優勝することができました。まずは、その件でお礼申し上げます。ただ、現在6面オムニコートですけどもあと4面、10面あればですね、県内でも2番目3番目の規模のテニスコートになっているんな大会ができますので、ぜひとも残りの分も前向きに整備のほうをお願いしたいと思っております。これはお願いであります。

それでは次の質問のほうに入ります。

ことしの祭りについての部分の再質問をいたしますけれども、まず弘前の事故の話、そしてまた、先ほど大久保議員からですね牽引について警察の見解があつてですね、ちょっと牽引方法についてのトラブルもあつたようでございます。また、新市長、夏祭りの見直しを考えているようですので、先ほど直接は市は関わらないということでありましたけれども、例えば反省会とかにですね、市のほうでも参加してどういう状況かというのをですね、把握してみるのもよいのでは。そうすればですね、参加団体の意向も直接聞くことができますので、そういうふうにしていただければなというふうに、これはお願いでございます。

質問はですね、人形ねぷたの補助金について先ほど聞きました。検討中だということで、何とか出していただけないかということで期待をしています。またですね、現状のねぷたを減らさないために助成の拡充はできないかという質問をさせていただきます。実際、ふやすのは難しい状況になってますけども、逆に今はいかに減らさないか、今の6団体をですね、どう減らさないかというほうにですね、逆に力を注がなければいけないような感じにもなっているかと思っております。例えばですね、私の元町では小学生が5人しか実際おりません。けどもですね、ねぷたをやめた周りの町内に声かけて参加してもらっています。そのためにも囃子の練習会をですね、早くから行い、子供たちに声がけして周りの町内の子供たちの残ったねぷたが参加の場所にもなっているということです。ただですね、子供は声をかけると何とか集まるんですけども、大人の運営する人は残念ながらふえてないというのが現状であります。ですから、残っている、特に人形ねぷたは経費がかかるのでねぷたにはですね、ねぷたをやめた町内の子供たちの参加という新たな役割がありますので、人形ねぷたを維持するためにもですね、何とか

今の助成の拡充も考えていただきたいということでございます。ということで、それをお伺いいたします。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） ねぶたの問題は、本当に市民全体で考えていかなければいけない、大変大事な問題だというふうに受け止めております。特に人形ねぶたにつきましては、今現在6台。これを維持して頑張っていたかなければいけないという気持ちは強く持っています。私もねぶたの出している方々とも若干話をしたときに、やはり経費面においても大変厳しくなってきていると、それで本来財政がいいのであれば市としてもいくらでも応援したいという気持ちはたくさんあるんですけども、なかなか限られる現状の中で何か知恵を出してできないものかなというふうなことも考えてます。1つとしましては、先般も新聞紙にも載っておったんですけども、全国各地でねぶた・ねぶたが今行われる状況になってきております。そういう場合に、どうしてもやはり本物、青森県のねぶた・ねぶたがその地域で必要になってくるのも事実でありますので、そういう情報をうまく捉えながら、そちらのほうにも黒石ねぶたを活躍できる場を提供するような、そういうコーディネータ的なものも必要なんじゃないかというふうに考えておりました、いずれにしましても、できることを全て出して、知恵を出してですね、今頑張っておられるねぶた関係者の方々に応援できる体制づくりに努めていきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 9番。

◎9番（大溝雅昭） ありがとうございます。ねぶたのリサイクルでもないですけども、黒石のねぶた、いろんなところでますます活躍できるようにしていただければなというふうに思います。

それでは3番の福祉バスの運用についての質問をいたします。

福祉バスには福祉バスという利用目的があって、福祉以外には貸せないということでございます。前にも何回も聞いてるんですけども、しかしながら、子供たちの関係団体から要望があります。前回の議会報告会でも市子連のほうから要望がありました。で、私の案というか、これからのことなんですけれども、現状はなかなか難しいということはそうなんですけれども、今学校の適正配置に黒石は取り組んでおります。その時に、スクールバスというのが実際出てきておりますので、そのスクールバスの導入を機に、導入方法などについて多角的に運用できるように考えてはどうかということをお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 大変申し訳ありません。通告が福祉バスであります。それが着地点がスクールバスということの問いかけが私は通告外だなとこう理解しますので、しかしながら行政側が答えるようでしたら答えてください。教育部長。



◎**教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保）** 福祉バス以外に学校の適正配置後のスクールバスを活用できないかということなんです。これにつきましては、当然適正配置になった場合には、スクールバスを運行する必要性というのが出てくるところもありますので、しかし現時点では民間委託による運行を検討しているという状況でして、学校以外の目的まではまだ検討されておりません。以上です。

◎**議長（村上啓二）** この質問についてはだめですよ。

（「これについてなんですけどお願いします。」と呼ぶ者あり）

◎**議長（村上啓二）** 提言なら結構ですけども質問はだめです。

◎**9番（大溝雅昭）** 提言です。福祉バスの利用は無理だということで、新しいバスも現状では無理だと、ただスクールバスをこれから用意することになると、その運用方法は現状では民間委託ということで考えてるという流れでございます。でも例えばですね、自前のバスが1台でもあれば緊急時に対応できることもありますし、また、子供会の、例えばなんで子供のほうから要望があるかという、子供会の行事もですね、町内単体ではできなくなって、広域で例えば地区や市やそういうところでやるのが実際子供が少ないので多くなっております。ですからそういう場面で時代の流れとともにそういうバスも必要になってきているという現状も理解していただいでですね、決定は先のことですので、運営方法を考えるときにその辺多角的にできるようになんとか、いろいろな要望が来ておりますのでお願いしたいということです。これは要望です。以上で質問を終わります。

◎**議長（村上啓二）** 以上で9番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

---

◎**議長（村上啓二）** 次に、2番工藤和行議員の登壇を求めます。2番。

登壇

◎**2番（工藤和行）** こんにちは。本日最後となりました。私は、自民・公明クラブ工藤和行であります。

まずもって高樋市長の就任をお喜び申し上げるとともに、黒石市のかじ取りとして大いに力を発揮されることを期待しております。また、私といたしましても高樋与党の一員として、その責任を果たすべく今後も努力してまいります。

市長の公約に関しましては、先ほど来、各議員が質問しておりますので、私からは3点ほど市長の考えや今後についてお聞きしたいと存じます。

質問の1点目。当市の財政について、アとして、アしかございませんが財政状況に対する市長の感触はどうかであります。市長就任後1カ月、引き継ぎやレクチャーを受けて市の財政状況をどう感じたのか、率直なところをお聞きしたいのであります。また、厳しい中でもやるこ

とはやらなければならないとおっしゃっておりますが、どのような方針で取り組むのか、あわせてお聞きします。

次に2点目、教育問題についてであります。アの小・中学校の適正配置について、イの学校給食について、ともにこの壇上からはそれぞれ市長の考え、思いなどを伺いたいのであります。

以上3点、壇上からお聞きし、私の一般質問とさせていただきます。御答弁をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤和行議員には直球の質問を投げいただきまして、大変ありがとうございました。これからもひとつよろしくお願い申し上げます。

市の財政状況についての御質問であります。鳴海前市長からは、引き続き財政健全化が大きな課題であり、今後2年間で正念場であるというふうにお聞きいたしております。財政課から、ここ数年の財政状況と平成26年度予算の説明を受けました。まだまだ厳しい状況が続くものというふうに感じております。そのため、先日議決いただきました市長の給与削減も、1日も早く実施したいと判断したところであります。市民が自信を失いかけているような停滞感を払拭するため、市民との対話を重視し情報共有を図り、市民意識の活性化につなげていくことを基本に、ハード・ソフトを問わず市が持っている既存資源の有効活用をすすめ、アイデアを出し合って工夫していきたいと考えておりますし、また、来年度予算に向けても重点項目をわけて、メリハリのある予算にしていきたいというふうと考えております。

教育問題についてであります。今議会の開会日に所信を述べさせていただいたとおり、私は小・中学校の適正配置についても、今のことを考えるだけではなく、子供の時代にも責任を持ち未来を見据えたものでなければならないものと強く思っておるしであります。近年、国の動向は、小中一貫・小中連携教育の推進をはじめ、学校統廃合指針の見直しなど、めまぐるしく変化いたしております。このような社会情勢の中で黒石市におきましても、将来、市民にとって、子供たちにとってどうあるべきかを考えていくことがとても大切だというふうに感じております。このことは給食についても同じであります。学校給食に伴う子供への食の安定供給、保護者の子育て支援など、将来的には学校給食の実施は必要不可欠なものと認識いたしております。できるだけ早い機会に方向性を見出していきたいというふうと考えております。以上です。

降壇

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

(なし)

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。2番。

◎2番（工藤和行） ただいまは御答弁ありがとうございました。

まず、順番変えて2番、教育問題から再質問させていただきます。

まず、アの小・中学校の適正配置についてでありますけども、まず確認のためとして、これまでのこの問題に対する経緯とか取り組み状況などを教えていただきたいと思います。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） これまでの経緯ということで、小・中学校適正配置のこれまでの経緯と取り組み状況であります。平成22年4月に、一般市民や学校関係者で構成する黒石市立小・中学校適正配置検討委員会を設置し、協議を重ねながら翌年11月に、10年後の黒石市の学校の姿を想定した答申を取りまとめました。この答申を受け、教育委員会では平成24年3月、現在の小学校10校を4校に、中学校4校を2校とする、具体的な統合のあり方を示した黒石市立小・中学校適正配置の方針を定め、地域住民やPTAなどへの説明会を開催し、周知を図ってまいりました。しかし、この方針に対して、地域から一部異論の声があり、教育委員会で再度検討した結果、平成25年2月に方針の一部を見直し、統合に直接影響のあると思われる保育園児の保護者を対象とした説明会を開催してきたほか、六郷地区では学校施設の見学会を開催するなど、さらに地域の理解を得られるよう周知を図ってきたところでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） ただいまは、今までの経緯など聞きましたけれども、先ほど市長に考えをお聞きしましたけれども、それを受けて教育委員会としてはどのように考えるか、今後のことについてなどお聞きします。

◎議長（村上啓二） 教育長。

◎教育長（阿保淳士） 工藤和行議員の小・中学校の適正配置についての、教育委員会としての今後の考えということについてお答えいたします。

教育委員会といたしましては、市長の答弁された未来を見据え、長期的なスパンで将来を見つめながら、もう一度時間をかけて住民への理解を求めていくとの考えはとても大切であると認識しております。50年前、昭和30年代は、本市では小学生だけで7,000人おりました。それがことし5月1日現在では1,654人です。同じく中学生も、50年前は4,000人いたのですが、ことしは1,000人を切り、小・中学校とも当時の4分の1以下に減りました。本市ではこの50年で急激に少子化が進んでおります。

一方で、先月、文部科学省では小・中学校の統廃合に関する指針を約60年ぶりに見直し、学

校統廃合を積極的に推進する方針を固めたとの報道がありました。加えて、現在、文部科学省では小中一貫・小中連携教育を推進しながら、小学校6年、中学校3年といった義務教育6・3制の区切りを、各自治体が地域の実情に合わせて弾力的に運用できる方向で検討に着手するなど、戦後続いてきた義務教育の大きな転換期を迎えております。このような状況の中、教育委員会といたしましても、現在進めている黒石市立小・中学校適正配置の方針は、小中一貫・小中連携教育などの面において、一部見直さざるを得ないのではないかと考えております。しかしながら、校舎の老朽化など、子供達の安心・安全な教育環境を確保するため、早急に対応しなければならない部分もあることから、今後は計画の見直しも視野に入れつつ、優先度を明確にしながら進めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） ありがとうございます。それでは次、イについて、学校給食について聞きたいと思います。これも、同じく確認のためこれまでの経緯などお聞きします。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 学校給食についてのこれまでの経緯ということで御説明いたします。

学校給食につきましては、現在、六郷・牡丹平・追子野木の3小学校で自校式の給食を実施しておりますが、残りの7小学校と中学校4校は未実施の状況でございます。市議会においても、これまで何度か質問として取り上げられ、そのたびに市の財政状況が好転した際は、センター方式で実施したいと答弁してまいりました。このような中、平成23年10月に、弘前市と黒石市との間で弘前圏域定住自立圏の形成に関する協定を締結し、少子化で給食センターの調理能力に余裕ができると見込まれた弘前市から、給食の提供を受ける可能性を探りながら協議を進めてきたところでございます。その後、黒石市立小・中学校適正配置の方針一部見直しを受け、当時の状況を総合的に判断した結果、当初目指していた平成27年度からの実施は極めて困難であるとの結論に達し、小学校の一斉統合と合わせて実施する方向で検討してまいりました。しかしながら、協定締結当初の計画から見て、弘前市の児童生徒数の減少率が想定するほど落ち込まなかったこともあり、本市が弘前市から給食の提供を受けるためには、供給元である弘前市東部給食センターの調理能力増加に伴うボイラーと調理設備の大規模な改修や、黒石市分のコンテナ保管場所の増築工事等が必要となることが明らかになりました。

また、給食を受け入れる側の本市においても、各小学校に弘前市の給食衛生管理基準に沿った給食搬入口を初め、給食仕分室、ダムウェーター、各教室への配膳台設置などの整備が必要なほか、給食搬送用のトラックや運転手を手配しなければならないなど、給食の実施には多額の経費を捻出しなければならない状況となっております。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） ただいまは、これまでの経過などをお聞きしましたが、これにつきまして、先ほどの市長の考えを受けての教育委員会としての今後の考え方などをお聞きします。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 現在、本市において学校適正配置の枠組みが確定しない状況にあつては、弘前市においても改修計画を進められない状態にあるばかりか、黒石市への給食提供のいかんにかかわらず、弘前市が行わなければならない定期的な調理設備の更新計画にも影響を及ぼすことが予想されています。加えて、子供たちの食の安全・安心、いわゆるアレルギー対策についても十分検討しなければならず、とても菌がゆい思いをいたしてもいません。食物アレルギーを持つ子供は年々ふえており、学校給食による発症事故も後を絶っていません。本市においても、給食を提供している3小学校においてエビやイカ、卵、落花生、鯖などによるアレルギーを持つ子供が多い、代替食を提供している状況にあります。教育委員会といたしましては、給食実施を望む保護者の皆様には、大変申し訳なく思っておりますが、今後も引き続き給食実現に向けて、あらゆる可能性を探ってまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） 給食についての考え、今聞いてもこちらのほうも大分菌がゆい答弁でありますけども、総括は後に回すとして、最初の1番の財政についてお聞きします。

市長の先ほどの答弁では大分厳しい状況を把握されているということでもありますけども、当局として現在の25年度決算見込みはどうなっているか。その中でも普通交付税が大きく減額になったということでもありますけども、そのことなどをどのように受け止めているのかお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私のほうからお答えいたします。平成26年度の普通交付税は7月25日に51億7,823万円の交付決定がございました。これは前年度に比べまして4.4%、2億3,825万8,000円の減でありまして、非常に厳しい内容となりました。全国的には、都道府県分が0.3%の増、市町村分が逆に2.6%減でありましたが、交付税が減額になった理由としては、地方財政計画に基づく職員の減員や建設事業の見直しがあつたことでの一律に減額、削減されたこと、また、市の個別事情としましては、人口減少率が大きいことのほか、地方消費税交付金や法人税などの収入が想定以上に増額算定となったことなど、予算編成時に示された地方財政計画の見込み以上の減額となったことにございます。このようなことから、消費増税の影響が不透明な中、来年度以降の普通交付税の見込みは、一層慎重に検討しなければならないと考えて

ございます。

それから、平成25年度の一般会計の決算でございますが、実質収支で約6億5,000万円の黒字となる見込みでございます。交付税減の補填、そして平成26年度の当初予算で3億6,000万円の財源不足ということでございます。そして、さらには今後補正予算で見込まれる財政需要があることから、財政には余裕はなく、依然として財政調整基金に頼らざるを得ない厳しい状況にあるということを申し上げておきたいと思っております。以上であります。

◎議長（村上啓二） 2番。

◎2番（工藤和行） ただいまは、大変厳しい財源状況をお聞きしましたけれども、市長は厳しい中でもやることはやらなければならないとおっしゃっておりますし、また、子育て、産み育てやすい環境をつくっていくという公約というか、そうおっしゃっておられる中で、私としてはこの教育問題についてなぜ一緒に聞いたか、この適正配置よりはやっぱり学校給食が先というか、今は現在セットのようになっておりますが、給食のほうが先だろという思いもございますので、そのように言ってきたんでありますけれども、ぜひ適正配置は慎重にゆっくりやらなければ、矛盾するようでありますけれども、学校給食は本当にぜひ早くやってもらいたいというところであります。財政も厳しい中で大変でありましようけれども、よろしく願います。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、2番工藤和行議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（村上啓二） 本日はこれにて散会いたします。

午後 2時50分 散 会

---

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成26年8月20日

黒石市議会議長 村上啓二

黒石市議会議員 大久保朝泰

黒石市議会議員 福士幸雄